

生物学

開講年次：1年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

生まれ、成長し、そして死んでいく人間としての生物学的な視点を理解する。

■到達目標

- ①細胞および細胞小器官の構造と機能を理解する。
- ②神経系における情報伝達の仕組みと神経系からの情報伝達により誘導される骨格筋収縮の仕組みを理解する。
- ③免疫系のしくみを理解する。

■担当教員 外部講師

■授業計画・内容

- | | |
|------|---|
| 1回目 | ガイダンス・生物学とは 細胞について 細胞の成り立ち・細胞の分類 |
| 2回目 | 原核細胞、真核細胞について
細胞内共生説・真核細胞の構造・核・ミトコンドリア・小胞体 |
| 3回目 | 小胞体の機能について・ゴルジ体・リボソーム・リソソーム 葉緑体の構造と機能 |
| 4回目 | ペルオキシソームの構造と機能・中心体の構造と機能 |
| 5回目 | 細胞骨格を形成するたんぱく質性フィラメント
微小管・中間径フィラメント・ミクروفフィラメントについて
細胞膜の構造と機能・主な膜脂質について・流動モザイクモデル・膜骨格 |
| 6回目 | 糖衣とは 血液物質について(A抗原・B抗原・H抗原)・細胞外マトリックスについて
コラーゲン・プロテオグリカン・グリコサミノグリカン・フィブロネクチン |
| 7回目 | 細胞膜における物質輸送 受動輸送(単純拡散・促進拡散)
能動輸送(ナトリウムポンプ・カルシウムポンプ・水素イオンポンプ)・神経系について |
| 8回目 | 活動電位の発生機構・シナプスの現象
電位依存性Na ⁺ チャネル・電位依存症・K ⁺ チャネルの機構・跳躍伝導について |
| 9回目 | 興奮の伝達・神経筋接合部・興奮収縮関連・骨格筋の収縮機構(滑り運動)
収縮調節たんぱく質(トロポニン・トロポミオシン) |
| 10回目 | 血液凝固について
一次止血(血小板血栓)・二次止血(フィブリン血栓)・線溶系について・生体防御機構 |
| 11回目 | 免疫担当細胞について・リンパ系について 一次リンパ器官と二次リンパ器官とは・
骨髄とは |
| 12回目 | 一次リンパ器官・骨髄・胸腺の構造と機能
二次リンパ器官・リンパ節・脾臓・粘膜附属リンパ組織 |
| 13回目 | サイトカインについて
自然免疫に働く液性因子(補体・インターフェロン)・自然免疫に働く細胞群(顆粒球) |
| 14回目 | 自然免疫に働く細胞群
好中球・好酸球・好塩基球・マスト細胞・マイクロファージ・樹状細胞
抗原提示と主要組織適合遺伝子複合体(MHC分子) |
| 15回目 | 自然免疫に働く細胞群・NK細胞・獲得免疫の発動
T細胞の分化・CD4T細胞・CD8T細胞・ヘルパーT細胞(Th ₀ 、Th ₁ 、Th ₂)
B細胞の分化(早期分化・後期分化)・抗体について
試験 |

■教科書(使用教材)

系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

その他

高校で生物を学んだ学生を対象とするため、内容は一步踏み込んだものとなります。授業内容をしっかり理解するよう心掛けてください。

文章表現

開講年次：1年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

文章を書き自己の考え方を知り、適切な日本語表現と論理的でわかりやすい文章表現力を身につける。

■到達目標

- ①読みやすく、説得力のある文章を書くことができる。
- ②文章を書くことへの抵抗が和らぎ、自分なりの文章表現を模索することができる。

■担当教員 外部講師

■授業計画・内容

文章の書き方

- 1回目 話しことばと書きことば
- 2回目 正しい文章を書こう（語句の対応と並べ方）
- 3回目 簡潔な文章を書こう（一文の長さに気をつける）
- 4回目 明確な文章を書こう（誤解を生じない書き方）
- 5回目 句読点の打ち方
- 6回目 段落分けのしかた

レポートの書き方

- 7回目 何を書くのか（書く手順・主題の決め方）
- 8回目 資料の利用（要約の手順）
- 9回目 まとめ方（構成を考える）

小論文の書き方

- 10回目 文体の統一、原稿用紙の使い方
- 11回目 小論文の種類と基本形

敬語表現

- 12回目 尊敬語について
- 13回目 謙譲語について
- 14回目 丁寧語・美化語について
- 15回目 敬語表現の練習
試験

■教科書（使用教材）

アイ・ケーコーポレーション 新版 日本語表現法

■参考文献

■成績評価と方法

定期試験100%

その他

文章表現力を高めるには、良い文章をたくさん読むことが重要です。新聞のコラム欄や社説などは毎日読むようにしましょう。文章の書き方やまとめ方、語彙力など、幅広い知識を自然に身につける事ができます。ぜひ、継続してください。

保健体育

開講年次：1年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

身体運動と健康管理について学ぶ。

■到達目標

①スポーツを通じて、自分の身体能力を知ると共に体力の保持・増進ができる。

②社会生活に必要なマナーやルール、社会性を身につける。

■担当教員 外部講師

■授業計画・内容

1回目	基本運動であることからの集団行動
2回目	運動あそびの基本動作から自分の体を知る
3回目	道具を使っての運動あそび
4回目	基礎体力運動・道具を使っての運動あそび
5-9回目	基礎体力運動・ソフトミニバレー
10回目	ニュースポーツの体験①
11回目	ニュースポーツの体験②
12-15回目	体力補強運動、バドミントン、卓球、まとめ

■教科書（使用教材）

■参考文献

■成績評価と方法

試験100%

その他

英語

開講年次：1年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

英語の基本的な文法・読解力の再確認と、さらなる実践的な運用能力の向上を目指す。

■到達目標

今日的な医療現場のトピックを通して広範囲な英語の知識と読解力を養い、生の英語に慣れ親しむ。

■担当教員 外部講師

■授業計画・内容

1回目	授業の説明 Chapter1 What is nurse? p7-11
2回目	Chapter2 The History of nursing. p15-17
3回目	Chapter3 Patient-nurse relationship.
4回目	Chapter4 Communication with a patient.
5回目	Chapter5 Intercultural relation with a patient.
6回目	Chapter6 Doctor-nurse relationship.
7回目	Chapter7 Related Professionals.
8回目	Chapter8 Nurses and the Hospital.
9回目	Chapter9 Nurses in the Community.
10回目	Review-① Chapter1-3 Dialogue etc.
11回目	Review-② Chapter4-6.
12回目	Review-③ Chapter7-9.
13回目	Chapter10 Nursing in the Future.
14回目	Review-④ Review worksheet (Grammar).
15回目	試験

■教科書（使用教材）

English for Nursing Students（看護系学生のための総合英語） 南雲堂

■参考文献

■成績評価と方法

中間試験35% 試験65%

その他

授業以外にも海外ドラマ・ニュースなどを見て日常使われる語彙や表現に親しみながら、英語力アップをはかりましょう。英検やTOEICにも是非チャレンジしてみてください。
予習・復習を忘れずに！（最も効果的な学習法です）

医療英会話

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

医療の現場における英会話を学ぶことで英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。

■到達目標

- ①臨床で必要な医療用語について理解できる。
- ②看護場面で対象を理解する上で必要な基本的な英会話ができる。

■担当教員 外部講師

■授業計画・内容

1回目	Bedside Manner	Unit1
2回目	Bedside Manner	Unit1
3回目	Bedside Manner	Unit1 & Unit2
4回目	Bedside Manner	Unit2
5回目	Bedside Manner	Unit2
6回目	Bedside Manner	Test Unit1&2
7回目	Bedside Manner	Unit3
8回目	Bedside Manner	Unit3
9回目	Bedside Manner	Unit4
10回目	Bedside Manner	Unit5
11回目	Bedside Manner	Unit3&4 Test、Unit5
12回目	Bedside Manner	Unit5、Unit6
13回目	Bedside Manner	Unit6
14回目	Bedside Manner	Unit6 Test、Unit1-6
15回目	Bedside Manner	Units1-6 Final test

■教科書（使用教材）

Bedside Manner Perceptia Press

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験 100%

その他

情報リテラシー I

開講年次：1年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

保健・医療・福祉の分野においてAIやIoT等の情報通信技術が急速に進んでいる。本学においてもICTを活用した電子教材が導入されている。本講義では学習の道具であるパソコンやタブレット端末の設定や基本的なアプリケーションソフトの利用方法を修得することをねらいとする。また、情報化社会における情報の取扱い方法について留意しなければならないことを修得する。

■到達目標

- ①パソコンやタブレット端末の設定やICT教材が活用できる。
- ②コンピューターを扱う上での基礎的なセキュリティについて理解できる。
- ③情報の定義と特徴について理解できる。
- ④タブレット端末のアプリケーションソフトを学習に活用できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|-----|---|
| 1回目 | 電子教材の基盤整備1
・Zoomでの講義視聴の留意点
・電子書籍のインストール
・ファイルアプリ等の確認 他 |
| 2回目 | コンピュータに関する基礎知識【看護情報学176-182頁】
iPadOS16の使い方（ファイルアプリを利用したデータの受け渡しなど） |
| 3回目 | インターネットに関する基礎知識と注意点【看護情報学182-187頁】
メールの利用方法 |
| 4回目 | ソーシャルメディア【看護情報学188-194頁】
ファイルの共有 |
| 5回目 | 情報とよりよい意思決定【看護情報学4-9頁】
メモアプリ・ノートアプリの使い方 |
| 6回目 | 「情報の認知と意思決定」と「情報の伝達とコミュニケーション」
ショートカットの活用方法 |
| 7回目 | 本講義での学びの総まとめ
iWORKSを活用し本講義の内容をまとめる。
まとめた内容をメールで提出する。 |
| 8回目 | 定期試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

定期試験70%、総まとめレポート30%

その他

情報リテラシーⅡ

開講年次：2年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

ICT等の情報技術が浸透した社会は、誰もが安心して喜びと悲しみを分かち合い、助け合える社会である。特に医療・保健・福祉分野においても同様である。本講義では病院内でICTがどのように活用されているのかを理解する。また、看護職として情報のいかし方、情報のまもり方、情報のつくり方、情報のひろめ方-これらの情報の使い方-を学んでいく。

■到達目標

- ①医療における情報システムの外観が理解できる。
- ②個人情報保護の意味と具体的な保護の仕方が理解できる。
- ③スプレッドシートで表とグラフが作成できる。
- ④ワープロソフトで小論文が作成できる。
- ⑤プレゼンテーションソフトを活用し小論等の内容について資料を作成できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|-----|--|
| 1回目 | 医療における情報システム【看護情報学90-101頁】
Numbersを触れてみよう |
| 2回目 | 病院内情報システムと記録の仕方【看護情報学101-116頁】
Numbersで表を作成してみよう |
| 3回目 | 地域医療福祉のネットワークと情報システム【看護情報学116-128頁】
Numbersでグラフ作成 |
| 4回目 | 個人情報の保護【看護情報学160-174頁】
Pagesの使い方 |
| 5回目 | 文字情報の整理
NumbersとPagesの連携 |
| 6回目 | 小論作成
<input type="checkbox"/> 指定されたテーマからPagesとNumbersを活用し小論を作成する。 |
| 7回目 | 小論作成
<input type="checkbox"/> 作成した小論をもとにKeynoteを使いプレゼンテーション用の資料を作成する。 |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

小論内容20%、小論プレゼンテーション資料20%、定期試験60%

その他

情報科学

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

「私たちの学校の特徴を数値を用いて述べなさい」という問いに対して、みなさんはどのように答えるか。この地域の人たちが多く、かっこいい・かわいい人が多いなど、が思い浮かぶかもしれない。これらを数値にすると「室蘭市出身者が80%、それ以外が20%」、「かわいい人が100%」と表すことができる。本当に、これらの値が私たちの学校の特徴を示しているのか？本講義では「問いを立て、どのように必要とされるデータを収集し、どのように集計し、どのように誤用を避けて分析するのか」という基本的な流れと分析結果の説明方法を習得する。

■到達目標

- ①調査研究の実際の流れを理解でき小論文作成ができる。
- ②統計学に最低限必要な確率・分布がわかり、母集団から標本を抽出方法、区間推定や2群の標本の検定を理解する。
- ③上記②について標本データから検定までをスプレッドシートを使い算出できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|---------|--|
| 1回目 | 統計とは【統計学第1章1-15頁】 |
| 2回目 | 統計データの種類とまとめ方【統計学 第2章16-24】
統計データの種類、尺度とは、質的データのまとめ方 |
| 3回目 | 統計データの種類とまとめ方【統計学 第2章24-43頁】
基本統計量の算出方法 |
| 4回目 | ある集団のデータのまとめ方【統計学 第2章43-44頁】
ゼミナールの問題をNumbersをもちいて演習する。 |
| 5回目 | 確率と分布【統計学 第3章46-76頁】
確率
順列・組合せ
確率分布 |
| 6回目 | 母集団と標本【統計学 第4章78-90頁】
母集団の表し方、標本の抽出方法、バイアス |
| 7回目 | 区間推定【統計学 第4章90-102頁】
区間推定の意味と求め方 |
| 8回目 | 各種検定1【統計学 第5章104-136頁】
検定の手順、2群の標本の検定 |
| 9回目 | 各種検定2【統計学 第5章143-150頁】
2群の比率の検定（カイ二乗検定） |
| 10回目 | オッズとオッズ比 |
| 11回目 | 回帰分析【統計学 第5章154-160頁】
相関係数の意味と求め方 |
| 12-15回目 | 総合演習
サンプルデータから記述統計と推測統計を行う。
上記、結果を課題レポートととして提出する。 |

定期試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 別巻 統計学 医学書院

■参考文献

統計学のしくみ 西東社

■成績評価と方法

課題レポート40%、定期試験60%

*課題レポート、定期試験を合わせて60%の成績に満たない者は再試験を実施する。

その他

哲学・倫理学

開講年次： 2年前期 科目区分：講義 単位： 2単位 講義時間： 45時間

■科目のねらい

①論理的に正しく考え、また、自分の主張を適切に表現するために、知っておくべき基本的な事項を確認し、論理的な思考にかんする理解を深める。看護とも関連し得る問題を取りあげて、個別の具体的な問題にかんして、適切に議論すること、あるいは、自分の主張を文章にまとめること、これらができるようにする。

②生命倫理 (boethics)、生物医学倫理 (biomedical ethics)、看護倫理 (nursing ethics) の議論を概観し、とくに看護倫理の基本的な考え方、理論を確認する。倫理の観点から看護ケアにかんする理解を深め、看護実践において直面し得る具体的な倫理事例を取りあげて、適切に議論すること、また、自分の主張を文章にまとめること、これらができるようにする。

■到達目標

①-1論理的に正しく考えるということにかんする理解を深める (知識)。

①-2看護と関連する具体的な問題にかんして、適切に議論できるようにする (論理的な思考の実践)。

②-1看護倫理の基本的な考え方、理論にかんする理解を深める (知識)。

②-2看護実践において直面し得る倫理事例にかんして、適切に議論できるようにする (論理的な思考の実践)。

■担当教員 外部講師

■授業計画・内容

1回目	論理的な思考の基礎1 相関関係と因果関係
2回目	具体的な問題を議論する1 [看護と社会]
3回目	論理的な思考の基礎2 議論の組み立て方、ツールミン・モデル
4回目	具体的な問題を議論する2
5回目	論理的な思考の基礎3 推理・推論
6回目	具体的な問題を議論する3
7回目	論理的な思考の基礎4 必要条件・十分条件
8回目	具体的な問題を議論する4
9回目	論理的な思考の基礎5
10回目	具体的な問題を議論する5
11回目	看護倫理の基礎1 倫理的な問題とは？
12回目	看護実践における倫理事例研究1 コワートさんの事例
13回目	看護倫理の基礎2 意思決定モデル、ジレンマ・メソッド
14回目	看護実践における倫理事例研究2 [患者の治療の拒否にかかわる問題]
15回目	看護倫理の基礎3 ペアレンタリズム・パターナリズムと患者の自己決定の権利の尊重
16回目	看護実践における倫理事例研究3 [治療の差しひかえ・治療の中止にかかわる問題]
17回目	看護倫理の基礎4 生物医学倫理の4原則、自律の原則とコンピタンスの問題
18回目	看護実践における倫理事例研究4 [人工妊娠中絶にかかわる問題]
19回目	看護倫理の基礎5 ケアの倫理へ
20回目	看護実践における倫理事例研究5 [生殖補助医療にかかわる問題]
21回目	看護倫理の基礎6 看護実践の倫理 (S・フライ) とナラティブ倫理学
22回目	看護実践における倫理事例研究6
23回目	試験

*どのような内容をどのような順序で取りあげるか、適宜、変更する場合がある。

*「論理的な思考の基礎1～5」と「看護倫理の基礎1～6」とは、基本的に講義の形式で実施する。判断推理の問題の演習なども取りいれながら、講義の形式であっても、論理的な思考を実践する機会ともなるようにする。

*「具体的な問題を議論する1～5」と「看護実践における倫理事例研究1～6」とは、グループ・ワークでのディスカッション (討論・議論) を中心に、論文作成の実践なども取りいれながら、進める。とくにグループ・ワークにかんして、積極的な参加を期待しています。

■教科書 (使用教材)

教科書は使用しない。適宜、レジュメ、資料などを配信・配布する。

■参考文献

授業のなかで参考書を指示する。

■成績評価と方法

筆記試験 (100%)。看護とも関連し得る具体的な論題にかんして、また、看護実践において直面し得る倫理事例にかんして、自分の主張をまとめる文章を作成する課題に取りくむ試験である。試験時間のなかでレポートを作成する形式での試験とと考えてください。

■その他

授業の眼目は看護とも関連し得る具体的な問題と看護実践における倫理事例とにかんして、実際に考える機会を持ってもらうこと、である (もちろん、具体的にさまざまな問題に取りくむときは、一定の知識が議論の前提としてもとめられ得るし、今回の哲学・倫理学の授業でも、押さえておくべき知識を確認する機会がもうけられる)。したがって、とくにグループ・ワークでのディスカッションへの積極的な参加を期待しています。

社会学

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

社会構造や規範・秩序に対して社会学から理解する。日本の家族・仕事・教育の変化を学び、社会の変化と私たちの生活を考える力を養う。

■到達目標

- ①社会構造と社会の変化について理解する。
- ②社会の一員である「自己」と社会の繋がりについて考えることができる。
- ③社会調査の意義と方法について理解する。

■担当教員 室蘭工業大学教員

■授業計画・内容

- | | |
|------|-----------------------|
| 1回目 | 社会学とは |
| 2回目 | 日本社会の変化 |
| 3回目 | 戦後の社会構造（過疎と過密） |
| 4回目 | 戦後日本型循環モデルの崩壊 |
| 5回目 | 家族の社会学 |
| 6回目 | 労働の社会学 |
| 7回目 | 貧困問題 |
| 8回目 | 結婚の社会学 |
| 9回目 | 地域の共助 |
| 10回目 | 社会調査の事例1 |
| 11回目 | 社会調査法 |
| 12回目 | 社会調査の事例2 |
| 13回目 | ボランティアの社会学 |
| 14回目 | ミックス論ー公助、市場、共助のメカニズムー |
| 15回目 | 社会規範の整理 |

■教科書（使用教材）

レジュメ等を配布

■参考文献

田所承己・菅野博史編『つながりをリノベーションする時代』弘文堂

■成績評価と方法

最終の試験は行わずに、レポートを5回課して100%で評価する。1回20点×5=100点満点とし、60点以上を合格とする。締切りに提出できない場合は、その回の点数はない。

その他

人間関係論 I

開講年次： 1年前期 科目区分： 講義 単位： 1単位 講義時間： 15時間

■科目のねらい

人間関係を構築するための知識や技術を学び、人間関係を良好に保つよう自己の成長を促す。

■到達目標

- ①人間関係形成のための効果的なコミュニケーションの方法について理解できる。
- ②他者との関わりにより他者理解・自己理解ができる。
- ③自己への気づきの重要性について理解できる。

■担当教員 外部講師

■授業計画・内容

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 1回目 | 講師紹介 |
| 2回目 | 「私」と「他者」
「私」理解のワーク |
| 3回目 | 他者を知る
自分のつながりの確認 |
| 4回目 | 人間関係図の作成と分析(小学校～高校～現在) |
| 5回目 | 記者会見体験
自我同一性とは |
| 6回目 | 自我同一性尺度検査
自己形成要素 |
| 7-8回目 | 人間の欲求、自己実現、基本的対人態度
グループワーク |

■教科書（使用教材）

■参考文献

■成績評価と方法

レポート

その他

人間関係論Ⅱ

開講年次：1年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

カウンセリングの考え方を基本に体験学習を通して「自分」「他人」を理解し、ひとりひとりが気持ちよく接することを体得する。

■到達目標

自己理解、他者理解を元に実践的な場面における対人関係能力を身につける。

■担当教員 外部講師

■授業計画・内容

1回目	人間の欲求、自己実現、基本的対人態度 グループワーク
2-3回目	明確な表現、グループワーク
4-5回目	発表 明確な表現 自分の事を明確に語る
6-7回目	明確な表現
8回目	自己開示体験

■教科書（使用教材）

■参考文献

■成績評価と方法

レポート

その他

心理学

開講年次：1年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

発達心理、人格形成、様々な人間の精神活動、行動のシステムについて学び自己を含めた人間を理解する。臨床場面における患者の心理的变化・特徴を知り患者を理解する。

■到達目標

- ①心理学の基礎知識を理解する。
- ②人の心理、行動を理解する。
- ③各発達段階の心理的発達過程について理解する。
- ④医療現場での臨床心理的な見方を理解する。

■担当教員 認定心理士、臨床心理士

■授業計画・内容

- | | |
|------|--|
| 1回目 | 生涯発達心理学①乳児期・愛着の発達 |
| 2回目 | 生涯発達心理学②幼児期・仲間関係の始まり |
| 3回目 | 生涯発達心理学③児童期・思春期・青年期の環境と学び |
| 4回目 | 生涯発達心理学④子ども虐待/成人前期 |
| 5回目 | 生涯発達心理学⑤成人後期・危機と成熟 |
| 6回目 | 生涯発達心理学⑥老年期 |
| 7回目 | 発達障害について |
| 8回目 | 医療場面での人間理解①
健康の心理と人間理解 ～患者の理解 |
| 9回目 | 医療場面での人間理解②
健康の心理と人間理解 ～看護職者の理解 |
| 10回目 | 心理的援助・心理 アセスメント
心理的援助・面接 アセスメントの分類 |
| 11回目 | 心理アセスメント実践
交流分析・TEGの実施 |
| 12回目 | カウンセリングと心理療法～個人療法①
精神分析・パーソンセンタード・アプローチ |
| 13回目 | カウンセリングと心理療法～個人療法② 他
認知行動療法 |
| 14回目 | カウンセリングと心理療法～集団療法
SSTの紹介 |
| 15回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

看護学生のための心理学 医学書院

■参考文献

看護に生かす臨床心理学 朱鷺書房
ストレス・マネジメント入門 金剛出版
ライフサイクルの臨床心理学 培風館

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

人体の仕組み総論・生殖・発生と老化の仕組み

開講年次：1年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：20時間

■科目のねらい

人体の全体のイメージをつかみ、人体を構成する素材、機能について理解する。細胞の生成、炎症、自己と非自己を分け、異物に対する身体の反応について免疫と腫瘍を通じて理解する。老化のしくみと生物学的な死について学び、疾病の原因や成り立ちを理解する。

■到達目標

- ①人体の構造について理解できる。
- ②人体の階層性を理解できる。
- ③細胞と組織について理解できる。
- ④細胞の炎症と修復について理解できる。
- ⑤免疫について理解できる。
- ⑥腫瘍が人体に及ぼす影響を理解できる。
- ⑦生物学的な老いと死について理解できる。

■担当教員 医師

■授業計画・内容

- | | |
|------|--|
| 1回目 | 人体の構造と区分
人体の部位と器官
人体をみる方向と位置
人体の階層性 |
| 2回目 | 細胞の増殖と染色体
組織とは |
| 3回目 | 生命の維持と運動の調節
体液とホメオスタシス |
| 4回目 | 細胞・組織が傷ついたら |
| 5回目 | 細胞・組織の炎症 |
| 6回目 | 免疫と免疫不全 |
| 7回目 | アレルギーと自己免疫疾患
移植と再生医療 |
| 8回目 | 腫瘍とはなにか
腫瘍の分類
腫瘍の広がり |
| 9回目 | 腫瘍の発生
腫瘍の診断と治療 |
| 10回目 | 老化と死
試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

授業を受ける際には、科目の到達目標を踏まえ、事前に教科書などの該当箇所を読み専門用語の意味・疾患について調べておきましょう。

栄養の消化と吸収

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：20時間

■科目のねらい

人体における栄養消化と吸収のシステムを学び、疾病の原因や成り立ちを理解する。

■到達目標

- ①栄養代謝に関連する臓器の構造と機能が理解できる。
- ②栄養代謝に関連する症状・徴候の病態生理を理解し、検査のポイント・治療の原則が理解できる。

■担当教員 医師

■授業計画・内容

- | | |
|--------|---|
| 1回目 | 口・咽頭・食道の構造と機能 |
| 2回目 | 食道の疾患
口の構造と機能、咽頭と食道の構造と機能、食道がん、食道アカラシア、胃食道逆流症 |
| 3回目 | 腹部消化管の構造と機能 |
| 4-5回目 | 胃・十二指腸疾患
胃の構造・機能、小腸の構造・機能、栄養素の消化と吸収、大腸の構造・機能、機能性胃腸症、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃がん、過敏性腸症候群、腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、腹膜炎、虫垂炎、ヘルニア、腸閉塞、消化管憩室、腸管ポリープおよびポリポーシス、大腸がん、肛門疾患 |
| 6回目 | 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 |
| 7回目 | 腹膜
膵臓の疾患
膵臓の構造と機能、肝臓と胆嚢の構造、肝臓の機能、急性膵炎、慢性膵炎、膵がん |
| 8-10回目 | 肝臓・胆嚢の疾患
肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、肝不全、肝がん、胆石症、胆嚢炎及び胆管炎、胆管がん、胆嚢がん、胆嚢ポリープ、肝寄生虫疾患
試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

授業を受ける際には、科目の到達目標を踏まえ、事前に教科書などの該当箇所を読み専門用語の意味・疾患について調べておきましょう。

呼吸と血液の働き

開講年次：1年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

人体における呼吸と血液の働きについて学び、疾病の原因や成り立ちを理解する。

■到達目標

- ①呼吸器の構造と機能が理解できる。
- ②呼吸器に関する症状・徴候の病態生理を理解し、検査のポイント・治療の原則が理解できる。
- ③血液の組織と機能を理解できる。
- ④血液組織に関する症状・徴候の病態生理を理解し、検査のポイント・治療の原則が理解できる。

■担当教員 医師

■授業計画・内容

- | | |
|-----|--|
| 1回目 | 呼吸器の構造と機能 呼吸器の構造
呼吸器の構造と機能 呼吸とは
①内呼吸と外呼吸 ②呼吸器と呼吸運動 ③呼吸気量 |
| 2回目 | 呼吸器の構造と機能 呼吸とは
④ガス交換とガスの運搬 ⑤肺の循環と血流 ⑥呼吸運動の調節呼吸器と呼吸運動 |
| 3回目 | 感染症・肺炎・結核
間質性肺炎・サルコイドーシス
呼吸不全
気胸 |
| 4回目 | 気管支疾患（気管支喘息、気管支拡張症、COPD）
肺血栓塞栓症
肺腫瘍 |
| 5回目 | 血液の組織と機能 |
| 6回目 | 赤血球系の異常・白血球系の異常 |
| 7回目 | 造血腫瘍
造血器腫瘍とは、造血器腫瘍の分類、造血器腫瘍治療の基本理念、
急性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、
成人T細胞性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫
出血性疾患
ITP、TTP、血友病、DIC |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

授業を受ける際には、科目の到達目標を踏まえ、事前に教科書などの該当箇所を読み専門用語の意味・疾患について調べておきましょう。

血液の循環とその調節

開講年次： 1年前期 科目区分： 講義

単位： 1単位 講義時間： 20時間

■科目のねらい

人体における血液の循環とその調節について学び、疾病の原因や成り立ちを理解する。

■到達目標

- ①心臓の構造と機能が理解できる。
- ②動脈および静脈の構造と機能、血液循環のしくみと働きが理解できる。
- ③心臓、血液循環に関する症状・徴候の病態生理を理解し、検査のポイント・治療の原則が理解できる。

■担当教員 医師

■授業計画・内容

1回目	循環器系の構成 心臓の構造
2回目	心臓の拍出機能 心臓の興奮とその伝播、心電図、心臓の収縮
3回目	末梢循環系の構造 微小循環 リンパとリンパ管 血管の構造、肺循環の血管、体循環の動脈、体循環の静脈、 微小循環、リンパ管の構造と循環、浮腫
4回目	血液循環の調節 血圧、血液の循環、血圧・血流量の調節、 チアノーゼ、起立性低血圧、高血圧
5回目	虚血性心疾患 労作性狭心症、冠攣縮性狭心症、不安定狭心症、急性心筋梗塞、
6回目	不整脈 洞調律、徐脈性不整脈、頻脈性不整脈、不整脈の治療
7回目	血圧異常、弁膜症 心膜炎、心筋疾患 本態性高血圧、二次性高血圧、僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全、大動脈弁狭窄症、 大動脈閉鎖不全、心内膜炎、心膜炎、心タンポナーデ、突発性心筋症、 二次性心筋症
8回目	動脈系疾患、静脈系疾患 先天性心疾患 大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性血栓血管炎、閉塞性動脈硬化症、 レイノー病、深部静脈血栓、 動脈管開存症、心房中隔欠損、心室中隔欠損、ファロー四徴症、大血管転位症
9回目	心不全
10回目	心不全 試験

■教科書（使用教材）

系統学看護講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
系統学看護講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

授業を受ける際には、科目の到達目標を踏まえ、事前に教科書などの該当箇所を読み専門用語の意味・疾患について調べておきましょう。

体液の調節と尿の生成

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

人体における体液の調節と尿の生成のシステムを学び、疾病の原因や成り立ちを理解する。

■到達目標

- ①腎臓の構造と機能が理解できる。
- ②腎臓に関する病態生理を理解し、検査・治療の原則が理解できる。

■担当教員 医師

■授業計画・内容

1回目 腎臓

2回目 排尿路

体液の調整

3-4回目 尿の異常、排尿に関連した症状

腎不全とAKI・CKD

ネフローゼ症候群

糸球体腎炎

タンパク尿、血尿、乏尿／無尿、尿閉、多尿、頻尿、尿失禁、

急性腎不全（ARF）、急性腎障害（AKI）、慢性腎不全（CRF）、慢性腎臓病（CKD）、

ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、IgA腎症

5-8回目 全身性疾患による腎障害

尿路・性器の感染症

尿路の通過障害と機能障害

尿路結石症

尿路・性器の腫瘍

男性不妊症、男性性器機能障害

糖尿病性腎症、腎盂腎炎、膀胱炎、水腎症、尿路結石、

腎細胞がん、膀胱がん、前立腺がん、前立腺肥大症、

男性不妊症、ED

試験

■教科書（使用教材）

系統学看護講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院

系統学看護講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

授業を受ける際には、科目の到達目標を踏まえ、事前に教科書などの該当箇所を読み専門用語の意味・疾患について調べておきましょう。

内臓機能の調節

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

人体における全身の細胞、組織を制御する自律神経とホルモンのしくみを学び、疾病の原因や成り立ちを理解する。

■到達目標

- ①ホルモンが分泌される部位とホルモンの名称とその作用が理解できる。
- ②ホルモン調整に関する症状・徴候の病態生理を理解し、検査のポイント、治療の原則が理解できる。

■担当教員 医師

■授業計画・内容

- 1-2回目 自律神経系による調節
内分泌系による調節
ホルモン分泌の調節
自律神経の構造と機能、自律神経の神経伝達物質と受容体、
内分泌とホルモン、ホルモンの化学構造と作用機序、
負と正のフィードバック
- 3-4回目 全身の内分泌腺と内分泌細胞
ホルモンによる調節の実際
視床下部-下垂体系、甲状腺と副甲状腺、膵臓、副腎、性腺、
その他（消化管、腎臓、松果体、心臓、胎盤）、
ホルモンによる糖代謝調節、カルシウム代謝調節、ストレスとホルモン、
乳房の発達と乳汁分泌、高血圧を来すホルモン
- 5-7回目 内分泌系疾患
代謝疾患
成長ホルモン産生腫瘍、クッシング病、尿崩症
バセドウ病、甲状腺中毒、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、橋本病、
甲状腺腫瘍、原発性副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、
クッシング症候群、褐色細胞腫、
糖尿病、脂質異常、肥満とメタボリックシンドローム、痛風
- 8回目 試験

■教科書（使用教材）

系統学看護講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
系統学看護講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

授業を受ける際には、科目の到達目標を踏まえ、事前に教科書などの該当箇所を読み専門用語の意味・疾患について調べておきましょう。

身体の支持と運動

開講年次：1年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

身体を支える骨格、それに付着する骨格筋の構造と運動について学び、疾病の原因や成り立ちを理解する。

■到達目標

- ①骨格、骨格筋、神経系の構造と機能を理解できる。
- ②骨・筋肉・関節・神経に関する病因と病変の特徴を理解し、検査のポイント・治療の原則が理解できる。

■担当教員 医師、理学療法士

■授業計画・内容

- | | |
|-----|--|
| 1回目 | 骨格とはどのようなものか
骨の連結
骨格筋
体幹の骨格と筋 |
| 2回目 | 上肢の骨格と筋 |
| 3回目 | 下肢の骨格と筋
頭頸部の骨格と筋 |
| 4回目 | 筋の収縮 |
| 5回目 | I 外傷の運動器疾患 骨折
脱臼
捻挫および打撲
神経の損傷
筋・腱・靭帯などの損傷 |
| 6回目 | II 内因性の運動器疾患 先天性疾患
骨・関節の炎症性疾患
骨腫瘍および軟部腫瘍
代謝性骨疾患 |
| 7回目 | 腱の疾患
神経・筋疾患
上肢および上肢帯の疾患
脊椎の疾患 |
| 8回目 | 下肢および下肢帯の疾患
試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

情報の受容と処理

開講年次：1年後期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

人体における情報伝達のしくみ、感覚機能について学び、疾病の原因や成り立ちを理解する。

■到達目標

- ①脳・神経系の構造と機能が理解できる。
- ②脳循環の構造と機能が理解できる。
- ③脳・神経系に関する症状・徴候の病態生理を理解し、検査のポイント・治療の原則が理解できる。

■担当教員 医師

■授業計画・内容

- | | |
|-----|--|
| 1回目 | 神経系の構造と機能、脊髄と脳
神経細胞と支持細胞、興奮・伝達（ニューロン・シナプス）、神経系の構造
脊髄の構造と機能
脳の構造と機能（脳幹、小脳、間脳、大脳、脳室と髄膜、脳脊髄液の循環） |
| 2回目 | 脊髄神経と脳神経
運動機能と下行伝導路
感覚機能と上行伝導路
脊髄神経の構造と機能、脳神経の構造と機能、運動ニューロン、下行伝導路
感覚の種類、体性感覚の受容器の種類、上行伝導路 |
| 3回目 | 脳血管障害、脳腫瘍
くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、もやもや病、TIA、脳腫瘍 |
| 4回目 | 頭部外傷、脳脊髄液（髄液）の異常
認知症
頭蓋骨の損傷、局所性脳損傷、びまん性脳損傷、水頭症、脳脊髄液減少症、
AD、DLB、VD、FTD |
| 5回目 | 脊髄疾患、末梢神経障害
脊髄血管障害、脊髄炎、脊髄腫瘍、脊髄空洞症、
ニューロパチー（単、多発性単、多発、糖尿病性）、ギランバレー症候群、
顔面神経麻痺、神経痛 |
| 6回目 | 筋疾患・神経接合部疾患、脱髄・変性疾患
筋ジストロフィー、多発性筋炎、皮膚筋炎、重症筋無力症、
多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症 |
| 7回目 | 脳の高次機能、てんかん
脳・神経系の感染症
脳波、睡眠、記憶、本能行動、情動行動、中枢神経系の障害、てんかん、
脳炎、髄膜炎、HTLV-1関連、HIV、梅毒、CJD |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統学看護講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
系統学看護講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

授業を受ける際には、科目の到達目標を踏まえ、事前に教科書などの該当箇所を読み専門用語の意味・疾患について調べておきましょう。

身体機能の防御と適応

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：20時間

■科目のねらい

人体における身体機能の防御と適応のシステムについて学び、疾病の原因や成り立ちを理解す

■到達目標

- ①感覚器の構造と機能について理解できる。
- ②感覚器に関する症状・徴候の病態生理を理解し、検査のポイント、治療の原則が理解できる。
- ③免疫のしくみと機能について理解できる。
- ④免疫に関する症状・徴候の病態生理を理解し、検査のポイント・治療の原則が理解できる。

■担当教員 医師

■授業計画・内容

- 1-3回目 眼の構造と視覚と異常
眼球の構造、眼球付属器、視覚、結膜炎、糖尿病網膜症、網膜剥離、加齢黄斑変性
白内障、緑内障
耳の構造と聴覚・平衡覚 と異常
耳の構造、聴覚、平衡覚、メニエール病、突発性難聴、中耳炎
味覚と嗅覚と異常
味覚器と味覚、臭覚器と臭覚、鼻アレルギー、副鼻腔炎、上顎がん、舌がん
- 4-6回目 皮膚の構造と機能
生体の防御機構
皮膚の組織構造、皮膚の付属器、皮膚の血管と神経、非特異的防御機構
特異的防御機構（免疫）、生体防御の関連臓器
湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹群
薬疹、水疱症、感染症
物理・化学的皮膚傷害、皮膚の腫瘍
褥瘡とは
アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、老人性乾皮症、蕁麻疹、薬疹、熱傷、帯状疱疹、
白癬、疥癬、伝染性膿痂疹、悪性黒色腫、褥瘡
- 7-10回目 膠原病の症状とその病態生理
アナフィラキシー
関節リウマチ
全身性エリテマトーデス
シェーグレン症候群
全身性強皮症
多発筋炎、皮膚筋炎
混合性結合組織病
ベーチェット病
試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院

系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

授業を受ける際には、科目の到達目標を踏まえ、事前に教科書などの該当箇所を読み専門用語の意味・疾患について調べておきましょう。

生化学

開講年次： 1年後期 科目区分：講義

単位： 1単位 講義時間： 30時間

■科目のねらい

人体の構成成分である化学物質の性状、その分布及び代謝について理解し、生命現象を科学的に判断する眼を養う。

■到達目標

- ①生化学を学ぶための基礎知識を理解することができる。
- ②生体を構成する物質や物質代謝について理解することができる。

■担当教員 外部講師

■授業計画・内容

- | | |
|------|---|
| 1回目 | クロマチンの構造・クロマチンパッキング・核酸について
ヌクレオチドの構造・DNA、RNAの構造 |
| 2回目 | DNAの複製・半保存的複製、DNAポリメラーゼによる合成反応
リーディング鎖とラギング鎖・DNAの修復 |
| 3回目 | 遺伝情報の転写・RNAポリメラーゼについて
プロモーター領域・原核細胞の-10領域、-35領域・真核細胞のTATAボックス、
CAATボックス転写の開始と終了 |
| 4回目 | 真核生物mRNAの特性とプロセッシング
遺伝暗号・セントラルドグマ・tRNAの構造と機能・リボソームの構造と機能 |
| 5回目 | 遺伝子の翻訳・開始複合体の形成(原核細胞・真核細胞)
翻訳の延長過程(原核生物)・翻訳の終結段階・タンパク質の細胞内輸送 |
| 6回目 | 生体を構成する成分・元素
生化学の基礎知識(1)・共有結合・原子構造・原子因と誘導体 |
| 7回目 | 糖質について(分類・役割)
単糖の分類(アルドース、ケトース)(ペントース・ヘキソースetc)
生化学の基礎知識・異性体(構造異性体・光学異性体(D型・L型)) |
| 8回目 | 単糖の構造・グルコースの鎖状構造と環状構造(α -アノマー、 β -アノマー)
ガラクトース・マンノース・フルクトースの構造
単糖の誘導体(グルコースの誘導体)・オリゴ糖について |
| 9回目 | オリゴ糖について・オリゴ糖(二糖類)・多糖(ホモ多糖・ヘテロ多糖)
生化学の基礎知識・高分子物質(たんぱく質・核酸等) |
| 10回目 | 糖質の消化と吸収(二次性能動輸送)
グルコースの主な代謝系
(解糖系→クエン酸回路→電子伝達系・糖新生・ペントースリン酸回路・グリコーゲンの合成と分解)生化学の基礎知識・共有結合の特徴(極性と非極性)・酸化還元反応 |
| 11回目 | 生化学の基礎知識・標準酸化還元電位とは？
糖質の代謝・細胞呼吸の概要・解糖系・クエン酸回路・電子伝達系 |
| 12回目 | 糖新生について(反応とその意義)・ペントースリン酸回路(反応とその意義) |
| 13回目 | グリコーゲン代謝の意義、反応、調節・糖質の消化、吸収・リポタンパク質とは
リポタンパク質の生成と役割・脂肪細胞でのホルモン感受性リパーゼの作用 |
| 14回目 | 脂肪酸の β -酸化・ケトン体の生成と利用
脂肪酸の生合成・たんぱく質の代謝・オルニチン回路等 |
| 15回目 | 試験 |

■教科書(使用教材)

系統学看護講座 専門基礎 生化学 医学書院

■参考文献

高校での授業内容を見直す事が重要です。授業で配布するプリントの内容が理解できれば、特に参考書は必要ないと思われます。また、授業はプリントの内容に沿って進めますので、テキスト(系統看護学講座)を参考書として活用してもいいでしょう。

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

微生物学

開講年次：1年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

感染症や伝染病の要因である微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する。

■到達目標

- ①各種病原微生物(細菌、真菌、ウイルス)による感染症の発生機序と病態を理解する。
- ②感染に対する生体防御機構(自然免疫と獲得免疫)を理解する。
- ③対象となる微生物の正しい滅菌法と消毒法、感染症の治療法(化学療法)の違いを理解する。
- ④耐性菌の獲得機序と院内感染の危険性を理解する。

■担当教員 臨床検査技師

■授業計画・内容

- | | |
|-----|--|
| 1回目 | 微生物と微生物学 【微生物学 第1章】
細菌の性質 【微生物学 第2章】
ウイルスの性質【微生物学 第3章】 |
| 2回目 | 真菌の性質【微生物学 第4章】
感染と感染症 【微生物学 第5章】 |
| 3回目 | 感染に対する生体防御機構 【微生物学 第6章】
滅菌と消毒 【微生物学 第7章】 |
| 4回目 | 感染症の検査と診断 【微生物学 第8章】
感染症の治療 【微生物学 第9章】
感染症の現状と対策 【微生物学 第10章】 |
| 5回目 | 病原細菌と細菌感染症 【微生物学 第11章】 |
| 6回目 | 病原ウイルスとウイルス感染症【微生物学 第12章】 |
| 7回目 | 病原真菌と真菌感染症 【微生物学 第13章】
寄生虫と衛生動物 【付章】 |
| 8回目 | 試験 |

■教科書(使用教材)

系統学看護講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [4] 微生物学 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

聞きなれない単語がたくさん出てきますが、セクション毎の「復習と課題」は知識の整理になるはずなので必ず実施しましょう。目に見えないほど小さな生物の学問ですが、授業では「見るべき対象」として丁寧な講義を心掛けます。

薬理学

開講年次：1年後期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

現代医学における薬物療法について学び、薬物が人体に及ぼす影響について学ぶ。

■到達目標

代表的な薬物の作用・特徴・副作用、取り扱いについて理解する。

■担当教員 薬剤師

■授業計画・内容

1回目	薬理学の基礎知識、中枢神経に作用する薬物
2回目	末梢での神経活動に作用する薬物
3回目	抗感染症薬
4回目	抗アレルギー薬・抗炎症薬、呼吸・消化器・生殖系に作用する薬物
5回目	呼吸・消化器・生殖系に作用する薬物
6-7回目	心臓・血管系に作用する薬物
8回目	試験

■教科書（使用教材）

系統学看護講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

■参考文献

系統学看護講座 別巻 臨床薬理学 医学書院

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

臨床薬理学

開講年次：2年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

臨床で用いる主な薬物の使用方法や管理について学び薬物療法における看護師の役割を理解する。

■到達目標

- ①医薬品の適正使用を理解する。
- ②医薬品のリスクを知った上で安全に使用できる知識を身につける。
- ③医薬品の効能効果が複数あることを学び、目的に合った適切な薬物用法を理解する。

■担当教員 薬剤師

■授業計画・内容

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 1回目 | 医薬品副作用被害救済制度
ジェネリック医薬品、漢方薬 |
| 2回目 | 医療用麻薬、鎮痛補助薬 |
| 3回目 | 抗がん剤治療と副作用 |
| 4回目 | 物質代謝に作用する薬物 |
| 5回目 | 医薬品の適正使用（計算問題） |
| 6回目 | 救急の際に用いられる薬物、皮膚科用薬・眼科薬 |
| 7回目 | ハイリスク薬 |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統学看護講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院
系統学看護講座 別巻 臨床薬理学 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

栄養学

開講年次：1年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

生命の維持、成長発達のために必要な栄養について学び、健康の維持増進のための栄養、食事療法を理解する。

■到達目標

- ①発達段階や健康障害における栄養状態の評価について理解する。
- ②治療食の意義や特徴を知り、臨床における栄養食事療法の必要性を理解する。

■担当教員 管理栄養士

■授業計画・内容

- | | |
|-----|---|
| 1回目 | 人間栄養学と看護 【栄養学 第1章】 |
| 2回目 | 栄養素の種類とはたらき 【栄養学 第2章】 |
| 3回目 | 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 【栄養学 第3章】
エネルギーと代謝 【栄養学 第4章】 |
| 4回目 | 食事と食品 【栄養学 第5章】
栄養ケア・マネジメント 【栄養学 第6章】 |
| 5回目 | 栄養状態の評価・判定 【栄養学 第7章】
ライフステージと栄養 【栄養学 第8章】 |
| 6回目 | 臨床栄養 【栄養学 第9章】 |
| 7回目 | 臨床栄養 【栄養学 第9章】
健康づくりと食生活 【栄養学 第10章】 |
| 8回目 | 試験対策
試験 |

■教科書（使用教材）

系統学看護講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

治療学Ⅰ（リハビリテーション・食事療法）

開講年次： 2年前期 科目区分： 講義 単位： 1単位 講義時間： 15時間

■科目のねらい

健康レベルや障害の特性に応じたリハビリテーションについて学ぶ。疾病回復のために行われる食事療法を学び、治療を受ける患者の理解を深める。

■到達目標

- ①リハビリテーションの専門的な役割と機能について理解できる。
- ②リハビリテーションにおける多職種チームの連携と協働について理解できる。
- ③疾病の回復のために行われている食事治療を理解する。
- ④食に関する問題を把握し解決するための知識を習得する。

■担当教員 作業療法士・理学療法士・言語聴覚士、管理栄養士

■授業計画・内容

リハビリテーション

- 1回目 リハビリテーション概論
作業療法
- 2回目 理学療法
- 3回目 言語聴覚療法

食事療法

- 4回目 栄養食事療法とは 【栄養食事療法 第1章】
栄養食事療法の実際 【栄養食事療法 第2章】
症状を持つ患者の栄養食事療法 【栄養食事療法 第3章】
呼吸器疾患患者の栄養食事療法 【栄養食事療法 第4章】
循環器疾患患者の栄養食事療法 【栄養食事療法 第5章】
- 5回目 消化器疾患患者の栄養食事療法 【栄養食事療法 第6章】
腎泌尿器疾患患者の栄養食事療法 【栄養食事療法 第7章】
- 6回目 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 【栄養食事療法 第8章】
血液疾患患者の栄養食事療法 【栄養食事療法 第9章】
アレルギー疾患患者の栄養食事療法 【栄養食事療法 第10章】
精神・神経疾患患者の栄養食事療法 【栄養食事療法 第11章】
熱傷・褥瘡の栄養食事療法 【栄養食事療法 第12章】
- 7回目 術前・術後の栄養管理 【栄養食事療法 第13章】
がん患者の栄養食事療法 【栄養食事療法 第14章】
妊産婦・更年期の栄養食事療法 【栄養食事療法 第15章】
小児の栄養食事療法 【栄養食事療法 第16章】
高齢者の栄養食事療法 【栄養食事療法 第17章】
医療保険制度・介護保険制度と食事 【栄養食事療法 第18章】
- 8回目 試験

■教科書（使用教材）

システム看護講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院
システム看護講座 別巻 栄養食事療法 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

治療学Ⅱ（臨床検査・臨床放射線）

開講年次：2年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

疾病回復のために行われる様々な検査・治療方法を学び、検査・治療を受ける人の理解を深め、観察力を養う。

■到達目標

- ①臨床検査とは何か、また臨床検査における看護師の役割を理解する。
- ②検体検査の主要な観察項目と疾患の関係性を理解し、検査データの解釈ができる。
- ③放射線の実際と特徴、放射線による障害と防護を理解する。

■担当教員 臨床検査技師、放射線技師

■授業計画・内容

- 臨床検査**
- 1回目 臨床検査の流れと看護師の役割 【臨床検査 第2章】
一般検査 【臨床検査 第3章】
- 2回目 血液学検査 【臨床検査 第4章】
化学検査 【臨床検査 第5章】
免疫・血清検査 【臨床検査 第6章】
- 3回目 内分泌学的検査 【臨床検査 第7章】
微生物学的検査 【臨床検査 第8章】
- 4回目 病理検査 【臨床検査 第9章】
生体検査 【臨床検査 第10章】
- 臨床放射線**
- 5回目 放射線医学のなりたちと意義 【臨床放射線医学 序章】
画像診断と看護 【臨床放射線医学 第1章】
放射線による障害と防護 【臨床放射線医学 第11章】
X線診断 【臨床放射線医学 第2章】
- 6回目 CT 【臨床放射線医学 第3章】
MRI 【臨床放射線医学 第4章】
超音波検査 【臨床放射線医学 第5章】
核医学検査 【臨床放射線医学 第6章】
IVR・血管造影 【臨床放射線医学 第7章】
- 7回目 放射線治療総論 【臨床放射線医学 第8章】
放射線治療と看護 【臨床放射線医学 第9章】
放射線治療各論 【臨床放射線医学 第10章】
試験

■教科書（使用教材）

系統学看護講座 別巻 臨床検査 医学書院
系統学看護講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

外科学

開講年次：2年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

外科における病因と病変の特徴を学び、手術療法について理解する。

■到達目標

外科（主に消化管）における病因と病変の特徴、さらに系統別疾患の病態生理、治療、検査について理解する。

■担当教員 医師

■授業計画・内容

1回目	甲状腺
2回目	大腸・肛門疾患
3回目	乳腺
4回目	胆道・膵臓
5回目	食道
6回目	肝臓
7回目	胃
8回目	試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

保健医療論

開講年次：1年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

医学の発達と現代の保健、医療、福祉の抱えている問題を知り、医療がどのような社会的期待を担っているか理解する。

■到達目標

- ①医学の歴史、進歩を学ぶ。
- ②生物としての人間の疾病像を理解する。
- ③病む人格体としての人間の姿を理解する。
- ④医学が社会にどう受け入れられているかを理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校 学院長

■授業計画・内容

- | | |
|------|---------------------------|
| 1回目 | 医学概論（定義） |
| 2回目 | 医学概論（IC/医療倫理） |
| 3回目 | 医学概論（医学・医療のあゆみ） |
| 4回目 | 医学概論（告知・脳死・臓器提供） |
| 5回目 | 医学概論（安楽死と尊厳死・living will） |
| 6回目 | 医学概論（健康と疾病、病気の原因 1） |
| 7回目 | 医学概論（病気の原因 2） |
| 8回目 | 医学概論（医学と医療） |
| 9回目 | 医学概論（病気の予防と免疫） |
| 10回目 | 医学概論（グループワーク、個人情報保護、看護実習） |
| 11回目 | 医学概論（予防医学と衛生学、人間ドック） |
| 12回目 | 医学概論（医療システム） |
| 13回目 | 医学概論（チーム医療） |
| 14回目 | 医学概論（緩和医療） |
| 15回目 | 医学概論（医学概論、総括） |
- 試験

■教科書（使用教材）

新体系 看護学全書 別巻 現代医療論 メヂカルフレンド社

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

社会福祉

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：2単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

社会福祉の発達、社会保障制度について学び、激変する現代社会での福祉の対応を理解する。

■到達目標

- ① 社会保障・社会福祉の制度とその変遷を理解する。
- ② 社会保障・社会制度を担う組織や従事者について理解する。
- ③ 現代社会の諸問題とそれに対応するための社会のしくみを理解する。
- ④ 医療保障制度の特徴と保険診療のしくみについて理解する。
- ⑤ 介護保険制度成立の経緯や現在の制度の概要・今後の課題と展望について理解する。
- ⑥ 人々の生活を支える所得保障・公的扶助のしくみを理解する。
- ⑦ 高齢者福祉・障害者福祉・児童家庭福祉の施策と実態・課題を理解する。
- ⑧ 社会福祉実践の多様な現場とその援助方法や職種間連携について理解する。

■担当教員 社会福祉士、精神保健福祉士

■授業計画・内容

- | | |
|------|----------------------|
| 1回目 | 社会福祉って何 |
| 2回目 | 社会保障制度と社会福祉 |
| 3回目 | 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 |
| 4回目 | 医療保障制度 |
| 5回目 | 医療保障制度（高齢者） |
| 6回目 | 介護保障制度 |
| 7回目 | 所得保障 |
| 8回目 | 公的扶助 |
| 9回目 | 社会福祉の分野とサービス1 |
| 10回目 | 社会福祉の分野とサービス2 |
| 11回目 | 皆さんに知ってほしい児童福祉 |
| 12回目 | 社会福祉実践と医療・看護 |
| 13回目 | 社会福祉の歴史 |
| 14回目 | まとめ |
| 15回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

公衆衛生学

開講年次：2年後期 科目区分：講義

単位：2単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

公衆衛生に関する諸問題を知り、組織的な保健活動の必要性を理解する。

■到達目標

- ①健康の定義を自分の言葉で表現できる。
- ②社会の健康問題を見つけ出すためにMinimum Essenceを身につけることができる。
- ③人間の健康を守るために必要な仕組みを社会的な視点から理解することができる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員、外部講師

■授業計画・内容

- | | |
|-------|---|
| 1回目 | みんなの健康 公衆衛生を学ぶにあたって【公衆衛生学2-12頁】 |
| 2回目 | 公衆衛生のエッセンス【公衆衛生学16-43頁】 |
| 3回目 | 公衆衛生の活動対象としくみ【公衆衛生学47-88頁】 |
| 4回目 | 疫学・保健統計環境と健康・国際保健【公衆衛生学92-107頁、182-190頁】 |
| 5回目 | 集団の健康をとらえるための手法【公衆衛生学107-114頁】 |
| 6回目 | 感染症とその予防対策【公衆衛生学156-177頁】 |
| 7-8回目 | 疫学的手法 演習【公衆衛生学107-114頁、156-167頁】
ある地域における感染症発症における対応 |
| 9回目 | 地域における公衆衛生の実践1【公衆衛生学196-247頁】 |
| 10回目 | 地域における公衆衛生の実践2【公衆衛生学247-309頁】 |
| 11回目 | 学校と健康【公衆衛生学314-333頁】 |
| 12回目 | 職場と健康【公衆衛生学338-359頁】 |
| 13回目 | 健康危機管理・災害保健【公衆衛生学362-379頁】 |
| 14回目 | 講義の総まとめ（国家試験問題も含めて実施） |
| 15回目 | 定期試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 医学書院
公衆衛生がみえる メディックメディア

■参考文献

随時紹介

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

健康を考えるには、どのような文献等を活用しなくてはいけないのかを講義を通じて紹介していきます。保健師課程に進学希望する学生、それ以外の学生も熱意をもって聴講してくれることを期待しております。

関係法規

開講年次：2年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

法律の基礎的知識を元に、保健、医療、福祉、看護における法令について理解する。

■到達目標

- ①人々の生活と健康を守るための法規について理解する。
- ②保健・医療・福祉、看護活動に関わる法規について関心を持つことができる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員、医師、薬剤師

■授業計画・内容

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 1回目 | 環境衛生法
ダイオキシン問題の教訓 |
| 2回目 | 薬務法 |
| 3回目 | 環境法 |
| 4-5回目 | 看護関係法令
看護法・医事法 |
| 6回目 | 法令等の形態
日本国憲法と保健師助産師看護師法の関連 |
| 7回目 | 保健師助産師看護師法の関連 |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

看護学概論 I

開講年次：1年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

看護とは何かを考える素地となる看護の歴史、職業倫理、ケアの対象の多様性、社会で期待される看護職の現状、看護ケアの果たす役割を理解する。

■到達目標

- ①看護の原点と近代看護の本質について理解できる。
- ②看護の理論的枠組みを理解し、「看護」「人間」「健康」「環境」について考えられる。
- ③看護倫理を知り、専門職としての自覚を育む。
- ④看護の歴史、看護教育制度の変遷を知り、今後の課題に気づく。
- ⑤看護サービスの場、チーム医療における看護師の役割がわかる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院 副学院長

■授業計画・内容

- | | |
|-----|---|
| 1回目 | 第1章 看護とは
看護の責務と広がり、看護への導入 |
| 2回目 | 第2章 看護の対象の理解 |
| 3回目 | 第3章 国民の健康状態と生活
ライフサイクルと健康 |
| 4回目 | 第4章 看護の提供者
職業としての看護、看護職の資格・養成制度・就業状況、看護職のキャリア開発
看護職の養成制度の課題 |
| 5回目 | 第5章 看護における倫理
倫理と法律、看護倫理とは、人権の変遷、倫理的課題への対応、倫理的看護実践
を行うために必要なこと |
| 6回目 | 第6章 看護の提供のしくみ
サービスとしての看護、看護サービスの提供の場、医療安全と医療の質の保証 |
| 7回目 | 第7章 広がる看護の活動領域
国際化と看護、災害における看護 |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院

■参考文献

フローレンスナイチンゲール看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会
ヴァージニアヘンダーソン看護の基本となるもの 日本看護協会出版会
ナーシンググラフィカ基礎看護学①看護学概論 メディカ出版

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

学問として看護について学び、専門職として人々の健康・生活へどのようにアプローチしていくかを考えていきましょう。

看護学概論Ⅱ（看護理論学習）

開講年次：3年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

看護における理論を知り、理論をふまえた看護観をもつことができる。

■到達目標

- ①看護理論に関心をもつ。
- ②代表的な看護理論の内容と特徴を説明することができる。
- ③自分自身の看護観をもつことができる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|-----|--|
| 1回目 | 看護理論とは
ナイチンゲールとヘンダーソンの看護理論を通して理論を学ぶ意義をとらえる。 |
| 2回目 | オーランドとウィーデンバックの看護理論を知り、看護実践と理論のつながりを学ぶ。 |
| 3回目 | ペプローとトラベルビーの看護理論を知り、人間関係/信頼関係構築の観点から看護実践と理論のつながりを学ぶ。 |
| 4回目 | オレム看護論とオレム・アンダーウッドモデルを用いて、セルフケア能力と看護実践について学ぶ。 |
| 5回目 | ベナー ホール ワトソン メイヤロフ レイニンガーのケア/ケアリング理論について学ぶ |
| 6回目 | ロジャーズの看護科学をもとに、人間と健康のとらえ方や看護のあり方を学ぶ。 |
| 7回目 | 薄井坦子の科学的看護論を通して、看護における科学的な思考について学ぶ。 |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院
新訂版 超入門 事例でまなぶ看護理論 学研メディカル秀潤社

■参考文献

看護の基本となるもの 日本看護協会出版会
看護覚え書き 日本看護協会出版会

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

看護の方法(コミュニケーション・看護過程)

開講年次：1年前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

人間関係を成立し発展させるために必要なコミュニケーションの基本知識と技術を学ぶ。
対象者のニーズに応じた看護を提供するための看護過程を学ぶ。

■到達目標

- ①コミュニケーションの意義や基本的な方法について理解する。
- ②コミュニケーション障がいがある人の特徴と効果的な対応について理解する。
- ③看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する。
- ④問題解決思考やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の実際を学ぶ。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|------|--|
| 1回目 | 仲間を知ろう～コミュニケーションとは～ |
| 2回目 | 看護・医療におけるコミュニケーションとは、ミスコミュニケーションはなぜ起こる |
| 3回目 | 関係構築のためのコミュニケーション① |
| 4回目 | 関係構築のためのコミュニケーション② |
| 5回目 | 効果的なコミュニケーション～傾聴～ |
| 6回目 | 効果的なコミュニケーション～情報収集～ |
| 7回目 | アサーティブネス |
| 8回目 | コミュニケーションの実際～得た情報を整理してみよう～ |
| 9回目 | コミュニケーション障害への対応 |
| 10回目 | 看護過程とは何か？看護記録の目的と機能 |
| 11回目 | 基盤となる考え方（問題解決過程 クリティカルシンキング 倫理・価値判断） |
| 12回目 | リフレクションについて |
| 13回目 | 看護過程の段階と人間の全体像 |
| 14回目 | 気づきと解釈 看護問題と看護計画 |
| 15回目 | 看護計画の実施と評価、看護記録について
試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院

■参考文献

看護がみえるvol.4 看護過程の展開 メディックメディア

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

本科目では、コミュニケーションの基礎知識や対象を理解するための観察技術を学修します。
看護過程は、これから看護師として患者と関わるうえでとても大切な考え方になります。自分の身の回りにある出来事について「なぜだろう？」と疑問に思うことから始めてみましょう。

看護の方法(フィジカルアセスメント)

開講年次：1年前期 科目区分：講義・演習 単位：2単位 講義時間：45時間

■科目のねらい

看護におけるフィジカルアセスメントについて学び、全身状態のアセスメント能力を習得する。

■到達目標

- ①フィジカルアセスメントを看護援助に活用することの意義を理解する。
- ②全身の系統的なフィジカルイグザミネーションの実際を習得する。
- ③フィジカルイグザミネーションと問診で得た情報を統合しアセスメントできる。
- ④バイタルサインの測定をすることの意義を理解する。
- ⑤バイタルサインの基礎的知識と正確な測定方法を習得する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員

■授業計画・内容

1回目	バイタルサインとは 体温測定とアセスメント
2回目	脈拍測定とアセスメント
3回目	呼吸測定とアセスメント
4-5回目	血圧測定とアセスメント
6回目	意識状態のアセスメント
7-8回目	バイタルサイン測定【演習】
9回目	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント 問診と基本的技術(視診、聴診、打診)
10回目	問診と基本的技術【演習】
11-12回目	呼吸器系のアセスメント
13回目	呼吸器系アセスメント【演習】
14回目	循環器系アセスメント
15回目	循環器系アセスメント【演習】
16回目	消化器系アセスメント
17回目	消化器系アセスメント【演習】
18回目	筋・骨格筋系のアセスメント
19回目	筋・骨格筋系のアセスメント【演習】
20回目	脳神経系・感覚器系のアセスメント
21回目	脳神経系・感覚器系のアセスメント【演習】
22回目	フィジカルアセスメント グループ演習
23回目	試験

■教科書(使用教材)

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 I 医学書院
フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

バイタルサイン・フィジカルアセスメントには、身体に関する知識、特に解剖生理学の知識が必要となります。バイタルサイン測定・フィジカルアセスメントは対象を理解するための基本的な技術ですので、科学的根拠と共に技術を習得しましょう。

看護の方法（環境調整技術・感染防止の技術）

開講年次：1年前期 科目区分：講義・演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

人間にとっての環境の意味と療養生活を快適に過ごすための環境に対する基礎知識を学び、生活環境を整える技術を習得する。

感染防止の基礎を学び、スタンダードプリコーションに則った感染防止の技術を身につける。

看護業務の中で起きやすい事故について理解し、事故防止のための具体的方法を学ぶ。

■到達目標

- ①人と環境との関係、環境調整の意義、目的を述べることができる。
- ②患者にとっての快適な病床環境をアセスメントし、調整することができる。
- ③基本的なベッドメイキング、臥床患者のシーツ交換を行うことができる。
- ④感染予防のための対策と感染症発症時の対応の基本知識を説明できる。
- ⑤感染予防の意義を理解し、さまざまな無菌操作を原理原則に沿って実施できる。
- ⑥主な医療事故の定義と要因、対策について説明できる。
- ⑦医療従事者の安全確保の技術として、薬剤・放射線曝露防止の方法がわかる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 1回目 | 人と環境、療養生活と環境、病室環境のアセスメントと調整 |
| 2回目 | ベッド周囲の環境整備、病床を整える |
| 3回目 | 感染とその予防の基礎知識、標準予防策 |
| 4回目 | 【演習】手指衛生、個人防護用具着脱 |
| 5回目 | 【演習】病床環境の調整：ベッドメイキングに必要な物品の準備、寝具のたたみ方 |
| 6-8回目 | 【演習】病床環境の調整：ベッドメイキング |
| 9-10回目 | 【演習】病床環境の調整：臥床患者のシーツ交換 |
| 11回目 | 感染経路別予防策 |
| 12回目 | 洗浄・消毒・滅菌 |
| 13回目 | 【演習】無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌物の取り扱い） |
| 14回目 | 感染性廃棄物の取り扱い、針刺し防止策、医療施設における感染管理 |
| 15回目 | 安全確保の技術
試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野	基礎看護学 [2]	基礎看護技術 I	医学書院
系統看護学講座 専門分野	基礎看護学 [3]	基礎看護技術 II	医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術			医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他（学生へのメッセージ・履修上の注意点）

この講義では、対象の環境、感染・安全対策について学びます。入院している対象が快適に、安全に過ごすために必要なことはなにかを考え、環境整備の重要性を学びます。また、どの援助にも共通して行われる感染対策の基本である、手洗い・手指消毒、個人防護具の着脱についても学びます。

講義では、教科書読む、ビジュランを見るなど予習を行った上で講義や演習を受け、知識や技術の定着を目指します。なぜその行動が必要なのかを理解し、基本的な環境整備や感染対策を身につけましょう。

看護の方法（食事援助技術・排泄援助技術）

開講年次：1年後期 科目区分：講義・演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

人間の基本的欲求である食事・排泄を充足させるための基礎知識を学び、食事や排泄援助の技術を習得する。

■到達目標

- ①食事や排泄の基本的知識を原理や根拠をもとに説明することができる。
- ②個人の健康レベルや食事・排泄行動の自立度に応じた効果的な援助方法について説明できる。
- ③食事・排泄の援助を根拠をもとに実践し、実施手順と留意点について習得することができる。
- ④患者の羞恥心に配慮し、尊厳を守る関わりを考え実施できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|---------|--|
| 1回目 | 食事・栄養の意義、消化吸収の解剖生理学的メカニズム、摂食・嚥下のメカニズム |
| 2回目 | 栄養状態のアセスメント、食べるために必要な機能・評価 |
| 3回目 | 食べるために必要な機能・評価、健康障害における食事の意義・食事の条件、医療施設で提供される食事・食器など |
| 4回目 | 食事介助の目的・適応・方法、口腔ケアの基礎知識 |
| 5-6回目 | 【演習】食事介助の方法 |
| 7回目 | 非経口的栄養摂取の援助、経管栄養・高カロリー輸液の援助、経鼻胃管栄養の方法 |
| 8回目 | 排尿・排便の意義、排尿・排便のメカニズム、アセスメント |
| 9回目 | トイレ・ポータブルトイレ、床上排泄、おむつによる排泄援助 |
| 10-11回目 | 【演習】床上での排泄援助方法、おむつ・尿取りパッドなどの使用方法 |
| 12回目 | 排尿障害の種類、導尿 |
| 13回目 | 排便を促す援助、ストーマケア |
| 14回目 | 【演習】一時的導尿の援助方法 |
| 15回目 | 【演習】グリセリン浣腸の援助方法 |
| 16回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術 メヂカルフレンド社
根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護技術 医学書院

■参考文献

看護技術がみえる①基礎看護技術 メディックメディア
看護技術がみえる②臨床看護技術 メディックメディア

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他（学生へのメッセージ・履修上の注意点）

本科目では、人間の基本的欲求である食事・排泄についてのメカニズムから基本的な援助方法について具体的に学びます。講義では教科書を読む、ビジュランの視聴など予習をすることで、知識や技術の定着を目指します。技術演習では、自主的に参加する態度や対象への配慮を意識した行動が必要です。特に排泄援助では、患者の羞恥心だけではなく、尊厳を守ることについても考えた関わりが必要となります。援助を行うにふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも演習を通じて学んでいきます。講義内容については、講義の進行状況により回数・形式等が一部変更になる場合があります。

看護の方法（活動・休息援助技術）

開講年次：1年前期 科目区分：講義・演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

姿勢・活動、睡眠・休息の看護の基礎知識を学び、安全で安楽な体位・移動や、睡眠・休息の援助を行う技術を身につける。

■到達目標

- ①姿勢についての基礎知識やボディメカニクスの基本原則を理解し、患者と看護者が安全かつ安楽な体位で、効果的・効率的にケアを実践する基本的方法を習得できる。
- ②人間の活動・運動の意義を理解し、活動・運動を支援する援助の方法を習得できる。
- ③睡眠の意義とメカニズムについて理解し、睡眠障害を持つ患者の援助方法を説明できる。
- ④安楽を提供する援助について、その必要性と方法を理解し説明できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|------|---|
| 1回目 | 「活動・休息」とは？ |
| 2回目 | 「よい姿勢」とは？ |
| 3回目 | 「体位」とは？ 「ボディメカニクス」とは？ |
| 4回目 | 「姿勢」による身体への影響とは？ 活動・運動のアセスメントと援助 |
| 5回目 | 体位変換の実際
体位変換① 水平移動 上方移動【演習】 |
| 6回目 | 体位変換② 仰臥位→側臥位【演習】
仰臥位→長座位→端座位 仰臥位→ファーラー位【演習】 |
| 7回目 | 車椅子とは？
車椅子移乗①【演習】 |
| 8回目 | 車椅子移乗②【演習】 |
| 9回目 | 車椅子移乗・移送・自走【演習】 |
| 10回目 | ストレッチャー移乗 歩行自助具の使用法【演習】 |
| 11回目 | 「安楽」とは？ |
| 12回目 | 「褥法」とは？
褥法【演習】 |
| 13回目 | 「睡眠」「睡眠障害」とは？ |
| 14回目 | 「睡眠の援助」とは？ |
| 15回目 | 安楽保持の技術応用編：ポジショニング【演習】
試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

看護の方法（清潔・衣生活援助技術）

開講年次：1年前期 科目区分：講義・演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

人間にとっての身体の清潔を保つことに対する基礎知識を学び、清潔援助の技術を習得する。

■到達目標

- ①皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を説明できる。
- ②患者の状態によって清潔援助の方法を選択の視点を理解できる。
- ③それぞれの清潔援助の根拠を理解し、患者の羞恥心に配慮しながら実施することができる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|---------|--|
| 1回目 | 清潔の意義、皮膚・粘膜の構造と機能、全身への効果・心理・社会的効果、患者の状態に応じた援助の決定と留意点 |
| 2回目 | 寝衣交換の援助方法 |
| 3回目 | 【演習】寝衣交換 |
| 4回目 | 入浴・シャワー浴・特殊浴槽援助の基礎知識と実際 |
| 5回目 | 全身清拭の援助の基礎知識と実際 |
| 6-7回目 | 【演習】全身清拭 |
| 8回目 | 陰部洗浄の援助方法 |
| 9-10回目 | 【演習】陰部洗浄 |
| 11回目 | 洗髪台での洗髪、ケリーパッドを用いた洗髪、部分浴・整容の援助 |
| 12回目 | 【演習】洗髪台での洗髪 |
| 13回目 | 【演習】ケリーパッドを用いた洗髪 |
| 14-15回目 | 【演習】部分浴・整容援助の実際（手浴・足浴・爪切り）
試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護技術 医学書院

■参考文献

看護技術がみえる①基礎看護技術 メディックメディア
看護技術がみえる②臨床看護技術 メディックメディア

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他（学生へのメッセージ・履修上の注意点）

人間の基本的欲求である清潔や衣生活、それを取り巻く環境について学びます。講義では教科書を読む、ビジュアルを見るなど、予習した上で講義や演習を受けることで知識の定着を目指します。技術演習では、物品の準備から後片付けを含め、自主的に参加する態度や対象への配慮を意識した行動が必要です。清潔援助では、対象の羞恥心、保温への配慮について考え、実施することが必要となります。また、援助を行うにふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも演習を通じて学んでいきます。講義内容については、講義の進行状況により回数・形式等が一部変更になる場合があります。

日常生活援助技術演習

開講年次：1年後期 科目区分：演習

単位：2単位 講義時間：45時間

■科目のねらい

看護の方法で学んだ知識を基盤として、対象者に必要な基本的な日常生活の援助方法について演習を通じて習得する。

■到達目標

- ①看護の方法の講義や演習内容を復習し、習得状況に沿った技術評価を実施し、個人の強み・弱みを見だし課題を明らかにする。
- ②各段階の課題を達成できるよう計画的・主体的に技術習得に励むことができる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- 1回目 本講義の到達点とすすめ方について
・看護技術の到達点に応じて事例を設定し、段階毎の評価を行う。
- 2-4回目 第Ⅰ段階の技術：看護援助の検討
5-8回目 第Ⅰ段階の技術：演習
9-10回目 第Ⅰ段階の技術：評価
11-13回目 第Ⅰ段階の技術：実践の振り返り
- 14-15回目 第Ⅱ段階の技術：看護援助の検討
16-18回目 第Ⅱ段階の技術：演習
19-20回目 第Ⅱ段階の技術：評価
21-23回目 第Ⅱ段階の技術：実践の振り返り

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護技術 医学書院

■参考文献

看護技術がみえる①臨床看護技術 メディックメディア
基礎看護技術・看護技術がみえる② メディックメディア

■成績評価と方法

課題の実施状況、技術評価合わせて100%
技術演習は基準の到達をもって単位習得とする。

■その他

事例と到達点を明示します。
看護の方法での学習を生かし主体的に学習を深めてください。
グループメンバーと協働し、メンバーシップ・リーダーシップを体得してください。

看護の方法（診察・検査・処置の介助技術）

開講年次：2年前期 科目区分：講義・演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

あらゆる健康障害を持つ人の診療場面における援助技術(診療・検査・処置)の基礎を身につける。

■到達目標

- ①呼吸、循環を整える技術を安全・安楽に提供できるよう、基本的な知識・技術を学習する。
- ②与薬経路・投与方法を理解し、必要な薬剤を安全に適切に投与するための留意事項、観察ポイントがわかる。
- ③症状・生体機能に関する主要な観察項目と検査方法がわかる。また、身体侵襲を伴う検査では、それに伴う心理的ケア、副作用の観察について学ぶ。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

1回目	呼吸・循環を整える技術	排痰ケア
2回目	呼吸・循環を整える技術	【演習】 口腔・鼻腔吸引
3回目	呼吸・循環を整える技術	酸素吸入療法、吸入
4回目	呼吸・循環を整える技術	【演習】酸素吸入療法
5回目	呼吸・循環を整える技術	持続吸引（胸腔ドレナージ） 人工呼吸療法
6回目	与薬の技術	与薬の基礎知識
7回目	与薬の技術	【演習】 直腸内与薬
8回目	与薬の技術	輸血、穿刺
9回目	診察・検査処置の介助技術	X線・CT・MRI他
10回目	創傷管理技術 包帯法	死の看取りの援助
11回目	症状・生体管理機能	検体検査(血液・尿・便・喀痰)
12回目	症状・生体管理機能	生体情報のモニタリング
13回目	与薬の技術	注射
14回目	与薬の技術	【演習】 筋肉注射
15回目	与薬の技術	【演習】 採血 血糖測定

試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

この講義では検査や処置について学びます。看護技術として知っているものや、他の講義の中で学習したもの、初めて聞くような検査でイメージがしにくいものなど様々です。講義も演習も事前学習をして、興味をもって参加してください。演習も多くあります。将来の自分をイメージしながら真摯な気持ちで演習に取り組んでください。

地域・在宅看護概論

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

その人らしい生活と自立に向けた支援を行うために必要な社会資源の活用や多職種との連携について学ぶ。

■到達目標

- ①地域・在宅看護の目的、在宅看護における対象の特徴がわかる。
- ②地域・在宅看護の対象である家族の理解と支援がわかる。
- ③訪問看護の特徴、社会資源の利用と法的根拠がわかる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

1回目	地域・在宅看護の目的、在宅看護における対象の特徴
2回目	地域・在宅看護の対象としての家族と在宅療養者と家族への支援
3回目	社会資源と在宅看護における看護師の役割
4回目	地域・在宅療養を支える制度と社会資源 介護保険制度
5回目	地域・在宅療養を支える制度と社会資源 訪問看護制度、障害者総合支援法、難病法
6回目	社会資源を活用する在宅療養者と家族への支援 グループワーク
7回目	社会資源を活用する在宅療養者と家族への支援 発表
8回目	試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 [1] 医学書院

公衆衛生がみえる メディックメディア

「NHK クローズアップ現代 急増する多重介護～担い手をどう支えるか」

看護技術学習支援ビデオシリーズ 「在宅看護論」 日本看護協会出版会

■参考文献

■成績評価と方法

グループワーク参加状況、筆記試験合わせて100%

その他

地域・在宅看護の方法Ⅰ

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：2単位 講義時間：45時間

■科目のねらい

疾病や障がいを持ちながらも地域で生活している人々とその家族に対する理解を深め、在宅における医療管理と生活支援の方法と看護を学ぶ。

■到達目標

- ①医療依存度の高い疾病を抱えながら生活している人々・家族への理解と支援の概要を理解する。
- ②医療依存度の高い疾病を抱えながら生活している人々・家族の生活をイメージすることができる
- ③家族の持つ特性を知り、家族を単位とした看護の方法を理解する。
- ④ロールプレイを通し訪問時のマナー・コミュニケーション上の注意点がわかる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|---------|--|
| 1回目 | 医療依存度の高い療養者への在宅看護の必要性、在宅における褥瘡の管理 |
| 2回目 | 在宅における非経口的栄養摂取法 胃ろう管理と中心静脈栄養法 |
| 3回目 | 在宅におけるストーマ管理 |
| 4回目 | 在宅酸素療法 |
| 5回目 | 在宅における人工呼吸療法 |
| 6回目 | 在宅における腹膜透析 |
| 7回目 | 在宅における疼痛管理 |
| 8-9回目 | 在宅でのエンドオブライフケア |
| 10回目 | 緊急時の対応と訪問のマナー |
| 11回目 | 在宅における精神障がい者の看護、医療的ケア児の看護 |
| 12回目 | 在宅看護の対象者としての家族、家族看護に対するニーズの歴史
在宅看護における家族のとらえ方
・家族システムの特徴
・セルフケア機能から家族を考える |
| 13回目 | ・家族機能のアセスメント |
| 14回目 | 家族を理解するための諸理論 |
| 15回目 | 地域システムの視点から家族を支える |
| 16-20回目 | ロールプレイに向けた事例の展開 |
| 21-22回目 | ロールプレイ発表 |
| 23回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 [2] 医学書院
写真でわかる 訪問看護 アドバンス 日本看護協会出版会
DVD 実践訪問看護シリーズ インターメディアカ

■参考文献

系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 [1] 医学書院

■成績評価と方法

課題提出状況グループワーク参加状況、筆記試験合わせて100%

その他

地域・在宅看護の方法Ⅱ

開講年次：2年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

在宅療養者が地域での生活を継続するための日常生活援助の方法を学ぶ。

■到達目標

- ①人間のニーズをふまえた日常生活援助をするための看護過程の基本を知る。
- ②在宅看護における日常生活援助の方法を知る。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員

■授業計画・内容

1回目	訪問看護における食生活・嚥下に関する援助
2回目	訪問看護における排泄に関する援助 訪問看護における移動、移乗に関する援助
3回目	訪問看護における清潔に関する援助 在宅療養上のリスクマネジメント
4回目	認知機能のアセスメント法と援助技術
5回目	在宅看護における看護過程の特徴 情報収集のしかた コミュニケーション
6回目	在宅療養者の看護過程 情報の整理
7回目	在宅療養者の看護過程 アセスメントの視点と実際
8回目	試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 [2] 医学書院
写真でわかる訪問看護 日本看護協会出版会

■参考文献

系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 [1] 医学書院

■成績評価と方法

課題の取り組みと筆記試験合わせて100%

その他

地域・在宅看護の方法Ⅲ

開講年次：3年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

事例をもとに地域で生活する在宅療養者と家族の実際、在宅看護を取り巻く現状を理解し、看護過程を展開することができる。

■到達目標

- ①疾患や障がいを抱えながらも地域で生活する療養者と家族の生活を尊重することの意義がわかる
- ②家族を1つの単位として支援することの必要性がわかる。
- ③在宅療養者にとっての家族の存在について考えることができる。
- ④在宅看護過程のプロセスが理解できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|-------|---|
| 1回目 | 在宅看護過程の特徴 |
| 2-5回目 | 紙上事例による看護過程の展開 グループワーク |
| 6-7回目 | 紙上事例による看護過程の展開 発表
事例について対象と家族の全体像、個別性をふまえた訪問看護計画の立案までの過程 |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 [1] 医学書院
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 [2] 医学書院
写真でわかる訪問看護 日本看護協会出版会
家族看護学 理論と実践 日本看護協会出版会
公衆衛生がみえる メディックメディア

■参考文献

■成績評価と方法

課題提出、グループワーク参加状況、筆記試験合わせて100%

その他

地域包括ケアシステム

開講年次：3年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

わが国は世帯構造の変化や認知症高齢者の増加、超高齢多死社会における看取りの場の課題などの社会情勢において看護職としてのフィールドは、病院以外のさまざまな場、一地域・在宅へと広がっていく。このような中で、看護職は、発症を防ぐ、あるいは重症化を防ぐといった「予防」の視点と、地域の人々の家族も含めた「暮らし」をみる視点をもたなくてはならない。

本講義では、個別事例やグループワーク（GW）を通じて予防の視点と暮らしを支える視点から地域で暮らす対象の健康課題を把握し、どのように対象にあったケアや社会資源を活用するかを学ぶ。個別事例を通じながらこの地域の健康課題を考えるまで発展させる。

■到達目標

- ①この地域の社会資源を地域包括ケアシステムの要素と支え方に分類できる。
- ②地域・在宅でかかわる主な制度と社会資源の関係が理解できる。
- ③予防の視点と暮らしをみる視点で対象の健康課題を明らかにすることができる。
- ④個別事例を積み重ねて地域の健康課題を明らかにすることができる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

1回目	地域包括ケアシステムを学ぶ背景と大切な概念 地域・在宅で暮らす対象のQOLを高める社会資源 テキスト「基礎からわかる地域・在宅看護論」第1章、第3章、第5章
2回目	GW：地域包括ケアシステムの要素と支え方
3回目	地域・在宅で暮らす対象のQOLを高める社会資源 テキスト「基礎からわかる地域・在宅看護論」第2章、第3章 事例紹介、GW
4回目	事例のGW
5回目	事例のGW
6回目	GW発表
7回目	個別事例から地域の健康課題を見いだすー地域包括支援センターと地域ケア会議ー
8回目	試験

■教科書（使用教材）

基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社

系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 [1] 医学書院

系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 [2] 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

グループワークの取組50%、筆記試験50%

その他

成人看護概論

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

成人期にある対象の特徴を捉え、形態機能・発達段階・危機・適応についての基礎知識及び成人看護の役割について理解する

■到達目標

- ①看護とは何か、看護が目指すべきものは何かを看護の先人たちの考えなどから、まとめる事ができる。
- ②成人期の特徴を大人になること、大人であること、老年期への移行という視点でまとめる事ができる。
- ③急性期、慢性期、障害も含む回復期、終末期といった成人の健康レベルに応じた看護をまとめる事ができる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校 専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|-----|--|
| 1回目 | 成人とは？看護とは？ |
| 2回目 | 生涯発達について
成人各期の特徴
①青年期：身体の発達と心理・社会的発達について
②壮年期・中年期：身体的変化と心理的・社会的発達について
③向老期：老年期への移行に向けて |
| 3回目 | 働いて生活を営むということ
生活とは？大人の生活や社会意識の変化について
仕事をもち、働くということ
家族の形態や関係性について |
| 4回目 | 成人の学習について
健康行動を生み、はぐくむ援助
集団へのアプローチについて
患者中心のアプローチ
意思決定支援と家族支援 |
| 5回目 | 急性期にある人の看護
・アギュララとメズイックのモデル
・フィンクのモデル |
| 6回目 | 救急医療を必要とする人への関わり
慢性病との共存を支える看護
病みの軌跡
首尾一貫感覚
セルフケアとセルフマネジメント |
| 7回目 | 障害がある人の生活とリハビリテーション
人生の最期のときを支える看護
医療の現状について
人間にとっての死について
全人的苦痛とは
人生の最期のときを支える看護師の役割・機能について |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院

■参考文献

成人看護学① 成人看護学概論 ナーシンググラフィカ

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

人生で最も長い期間である「成人期」について学んでいきます。大人とはどのような存在なのか、看護がどのように関わっていくと良いのか、皆さんで楽しく学んでいきましょう。

成人保健

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

成人期における対象の健康に影響する諸因子を学び健康の回復、疾病予防と保健活動について理解する

■到達目標

- ①健康とは何かを述べられる
- ②成人を取り巻く健康生活について調べることができる
- ③成人の健康と生活をまもり育むシステムの概論を把握することができる
- ④健康行動の理論がわかり、事例を通じて理論を活用できる

■担当教員 市立室蘭看護専門学校 専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|-----|--|
| 1回目 | 健康とは何か？について考える
成人各期の特徴について振り返る |
| 2回目 | 成人を取り巻く環境、生活環境について理解する |
| 3回目 | 成人期に特徴的な健康問題について、環境面から考える
ヘルスプロモーションと看護 |
| 4回目 | 健康をおびやかす要因と看護①
ライフスタイルと健康問題
ストレスと健康生活（ストレスコーピング） |
| 5回目 | 健康をおびやかす要因と看護②
生活習慣病
感染症について |
| 6回目 | 成人の患者と家族への看護について①
生活習慣からみる患者支援をグループワークを通じて学ぶ |
| 7回目 | 成人の患者と家族への看護について②
グループワークの発表 |
| 8回目 | 筆記試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 成人看護学総論
国民衛生の動向 厚生労働統計協会
公衆衛生がみえる メディックメディア

■参考文献

成人看護学① 成人看護学概論 ナーシンググラフィカ
系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

人生で最も長い期間である成人期に起こりうる健康問題に着目し、学んでいきます。皆さんにとっても身近な生活習慣や環境からも健康について考えていきましょう。

急性期看護

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

急性期・周手術期にある対象を理解し、対象と家族に必要な支援と看護過程を学ぶ。

■到達目標

- ①急性期にある対象と家族の特徴を理解する。
- ②急性期看護の特徴を理解する。
- ③生命の維持・危機的状況からの回復のために必要な看護を理解する。
- ④周手術期にある対象と家族の特徴、看護を理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員、病院看護師

■授業計画・内容

- 1回目 □急性期における看護（臨床看護総論65-76）【専任教員】
・急性期の特徴（患者の特徴、急性期医療と看護の場）
・急性期の患者のニーズ（身体的、心理・社会的、家族）
・急性期にある患者への看護援助（全身状態の観察、苦痛の緩和と安楽な時間の提供、生活行動の支援と回復の促進、早期からのリハビリテーション、苦痛をのりこえる過程への支援、家族への支援）
- 2-5回目 □救急患者の観察とアセスメント（救急看護学第4章100-162）【救急看護認定看護師
(計4回) A周囲の状況確認と感染予防対策、B全身と外観の観察とアセスメント、C緊急検査、D脳・神経系、E呼吸器系、F循環器系、G消化器系、H泌尿器・生殖器系、I筋・骨格系、J内分泌・代謝系、K精神状態
□主要病態に対する救急処置と看護（救急看護学第5章164-284）【救急看護認定看護
*上記、観察とアセスメントに関連する救急処置と看護
□クリティカルケア看護に必要な看護技術（クリティカルケア看護学第4章176-269）
・M危機状態にある患者・家族へのケア（264-271）
*上記、主要病態に対する救急処置と看護に関連する看護技術。
- 6回目 □手術前患者の看護（臨床外科総論第7章228-259）【外科病棟看護師】
- 7回目 □手術中患者の看護（臨床外科総論第8章262-304）【手術室看護師】
- 8-9回目 □手術後患者の看護（臨床外科総論第8章306-353）【外科病棟看護師】
- 10-13回目 周手術期事例展開（大腸がんMedi-EYE事例）
・全体像モデル、感じたことの分析、ビジョンゴール具体策をグループでまとめる。
- 14回目 術後の全身状態の観察演習
- 15回目 術後の観察演習の振り返り

筆記試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 別巻 救急看護 医学書院
系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験結果100%

その他

慢性期看護

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

慢性期にある対象を理解し、対象と家族がセルフケア能力を高め生活していくための支援と看護過程

■到達目標

- ①慢性期にある対象と家族の特徴を理解する。
- ②慢性期看護の特徴を理解する。
- ③慢性期にある成人期の対象の生活調整とセルフケアを促す看護を理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員、病院看護師

■授業計画・内容

- 1回目 □慢性期における看護（臨床看護総論88-100）【専任教員】
- ・慢性期の特徴（慢性的経過をたどる疾患・生活者としての患者、合併症の予防と良好な状態の維持、多様な療養の場とチーム医療、経過をとらえる視点）
 - ・慢性期の患者のニーズ（セルフケア、健康障害と疾病の受容、自分らしく生きるこ
 - ・慢性期にある患者への看護援助（セルフケア獲得に向けた支援、セルフケア継続に向けた患者-医療者関係の構築、セルフケアに適した環境の調整）
- 2-5回目 □がんとともに生きる—抗がん剤治療を受ける看護—（がん看護学第3章C薬物療法128-158）【病院看護師】
- がんとともに生きる—放射線療法を受ける看護—（がん看護学第3章D放射線療法159-181）【病院看護師】
- 6回目 □糖尿病患者の看護の実際（内分泌・代謝243-281）【病院看護師】
- 7回目 □心不全患者の看護の実際（循環器323-335）【病院看護師】
- 8回目 □COPD患者の看護の実際（呼吸器226-231）【病院看護師】
- 9回目 □血液透析を受ける患者の看護（腎・泌尿器252-264）【病院看護師】
- 10-13回目 □慢性腎不全の血液透析患者の看護事例展開（ビジュラン事例）
- ・全体像モデル、感じたことの分析、ビジョンゴール具体策をグループでまとめる。
- 14回目 □透析患者に対する指導演習
- 15回目 □演習の振り返り

試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座	専門分野	基礎看護学	[4]	臨床看護総論	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[1]	成人看護学総論	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[3]	循環器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[2]	呼吸器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[6]	内分泌・代謝	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[8]	腎・泌尿器	医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験結果100%

その他

回復期看護

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

回復期にある成人期の対象を理解し、対象と家族がセルフケア能力を高めるための支援と看護過程を

■到達目標

- ①回復期にある対象と家族の特徴を理解する
- ②回復期看護の特徴を理解する。
- ③回復期にある成人期の対象と家族が、障害を受容し生活を再構築するために必要な看護を理解する

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員、病院看護師

■授業計画・内容

- 1回目 □回復期における看護（臨床看護総論77-88）【専任教員】
・回復期の特徴（回復期とは、回復期の対象、リハビリテーション、回復期の場）
・回復期の患者のニーズ（身体的ニーズ、心理社会的ニーズ、家族のニーズ）
・回復期にある患者への看護援助（体力の回復の促進、生活活動の自立に向けた援助、障害の受容過程への支援、退院後の継続看護）
- 2-8回目 □脳神経疾患を抱える患者の看護 【講師：脳卒中、摂食嚥下認定看護師】
・脳神経疾患患者の実際の看護
- 9-13回目 □脳梗塞で誤嚥性肺炎から胃瘻造設した事例展開（Medi-EYE事例）【専任教員】
・全体像モデル、感じたことの分析、ビジョンゴール具体策をグループでまとめる。
- 14回目 □全身状態観察と移乗介助演習
- 15回目 □演習の振り返り
試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳神経 医学書院
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験結果100%

その他

終末期看護

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

人生の最期のときを迎える患者との関わりについて学び、自己決定権を尊重しQOLを維持するための看護について理解する。また、終末期にある患者を支える家族の悲嘆にも目を向けた関わりについて学ぶ。

■到達目標

- ①がん患者の看護について理解する
- ②終末期医療の現状と看護の役割について理解する
- ③終末期にある患者の苦痛について理解する
- ④終末期にある患者を支える家族の悲嘆について理解する

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員 緩和ケア認定看護師

■授業計画・内容

- 1-3回目 □終末期における看護（臨床看護総論101-116）【専任教員】
- ・終末期の特徴（エンドオブライフケア、死亡場所の変化、患者・家族の全人的苦痛の理解、緩和ケアの実施、多職種協働によるチームアプローチ、地域包括ケアによる支援、情報共有と合意による意思決定支援、ACP）
 - ・終末期の患者のニーズ（身体的ニーズ、心理的ニーズ、社会的ニーズ、スピリチュアルなニーズ）
 - ・終末期にある患者への看護援助（身体症状の緩和、真実の告知、自立性とその人らしさの支援、人生の統合への支援、家族への援助、グリーフケア）
- 4-7回目 □緩和ケア看護の実際（緩和ケア第2、3、5、8章）【緩和ケア認定看護師】
- ・患者・家族の心理状況と意思決定支援の実際
 - ・全人的痛みに対する実際のケア
 - ・緩和ケアチームによる患者・家族のサポート体制
 - ・緩和ケア看護を行うものとしての心構え
- 8-13回目 □肝細胞癌末期の事例展開（Medi-EYE事例）【専任教員】
- ・全体像モデル、感じたことの分析、ビジョンゴール具体策をグループでまとめる。
- 14回目 □全身状態観察とベット上での整容援助
- 15回目 □演習の振り返り
試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院
系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験結果100%

その他

臨床判断

開講年次： 2年後期 科目区分：講義・演習 単位： 1単位 講義時間： 30時間

■科目のねらい

対象の疾患、検査データなどの「知識」と対象の「症状」を総合的に考え緊急度、重症度の判断につなげる考え方を身につける。

■到達目標

- ①既習の学習を元に、対象理解に必要な学習ができる。
- ②対象の状況を知覚的に把握し、フィジカルアセスメント・知識を活用して対象の状態を予測できる。
- ③対象の状況に合わせた介入方法を検討し、看護を実践できる。
- ④対象の状況や反応から、実践した看護の評価ができる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- 1回目 臨床判断とは 薄井モデルと臨床判断モデルの関連（臨床看護総論305-306, 293-295）
・ベナーの臨床判断モデル
・肺がんで化学療法を受ける事例から薄井モデルの全体像モデルにあてはめる
- 2回目 薄井モデルと臨床判断モデルの関連（コンセプト学習）
・ガス交換（肺の機能）、胸部のフィジカルアセスメント、細胞制御（腫瘍）、化学療法についてのコンセプト学習
- 3-5回目 薄井モデルと臨床判断モデルの関連（感じたことの分析とVG具体策）
・感じたことの分析からVGを明らかにし、VGに向かうための具体策を導き出す。
・場面演習の準備（場面は臨床看護総論308-309）
- 6回目 場面演習
・受持4日目のぐったりしたAさんに対しての環境整備
・受持6日目の洗顔を希望しているAさんに対しての状態観察と報告
- 7回目 ディブリーフィングと発表
・グループで場面のVTRを確認し省察を行う
・省察内容の発表
- 8-13回目 □乳房温存術を受けた患者の事例展開（ビジュラン事例）
・全体像モデル、感じたことの分析、ビジョンゴール具体策をグループでまとめる。
- 14回目 □術後の全身状態の観察と状態報告（早期離床のアセスメント）
- 15回目 □演習の振り返り
試験

■教科書（使用教材）

- 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院
系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験結果100%

その他

老年看護概論

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

皆さんにとって、「高齢者」とはどんな存在ですか？「年齢を重ねる」とはどんな現象ですか？

本講義では、高齢者の特徴を、身体的・精神的・社会的な側面（健康の3要素）から学習します。そのうえで、「高齢者への看護とは何か」を自分の言葉で表現できることをゴールとします。

■到達目標

- ①高齢者の特徴を、身体的・精神的・社会的側面から理解する。
- ②「高齢者への看護」とは何かを、自分の言葉で表現できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|-----|-------------------|
| 1回目 | 「高齢者」とは |
| 2回目 | 「老いる」とは |
| 3回目 | 「身体」からみる高齢者 |
| 4回目 | 「こころ」からみる高齢者 |
| 5回目 | 「社会」からみる高齢者 |
| 6回目 | 「認知症」からみる高齢者 |
| 7回目 | 「高齢者への看護」の基本となるもの |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院

系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

■参考文献

イブ・ジネスト他：ユマニチュード入門 医学書院

※その他については随時、紹介します。

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

講義を通じて看護とは何か？健康とは何か？歳を重ねていくとはどういうことか？を考えていきます。その中で「『高齢者への看護』がなぜ必要なのか？」を、一緒に学んでいきましょう。

老年保健

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

本講義では普段何気なく使っている「健康」を高齢者の特徴と照らし合わせながら考えていきます。そして高齢者をとりまく社会情勢を踏まえて、高齢者の健康を保つために看護職としてどのような看護が肝要なのかを考えて、実践につなげることをねらいとします。

■到達目標

- ①高齢者を取り巻く社会状況が理解できる。
- ②多様な生活の場で暮らす高齢者の健康とそれを支えるための社会資源が理解できる
- ③高齢者の健康の保持・増進に着目したヘルスアセスメントが理解できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|-----|---|
| 1回目 | 高齢者を取り巻く社会状況【老年看護学24-35、373-377頁】 |
| 2回目 | 高齢者にかかわる保健医療福祉システム【老年看護学36-41、360-373頁】 |
| 3回目 | 介護保険制度のしくみ【老年看護学42-49頁】 |
| 4回目 | 高齢者の権利擁護【老年看護学54-67頁】 |
| 5回目 | 高齢者のヘルスアセスメントの基本【老年看護学86-94頁】 |
| 6回目 | 認知症高齢者のヘルスアセスメント1 |
| 7回目 | 認知症高齢者のヘルスアセスメント2 |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院
公衆衛生がみえる メディックメディア

■参考文献

薄井坦子 ナースが視る病気 日本看護協会出版会
薄井坦子 科学的看護論 日本看護協会出版会

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

講義は、問いの投げかけから老年保健のテーマについて理解を深めていきます。わかることの面白さを体験していきましょう。

老年看護の方法 I

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

人間は加齢により、その身体・精神に、そして社会との関わりに変化をきたします。これらの変化は、加齢がその要因であるがゆえに「不可逆」であることが多く、日常生活を営むための「生活機能」に影響を及ぼします。ここでは、そのような変化を「戻す」のではなく「受け入れ」、そして「生活」自体に焦点をあて整えていく、そんな看護のありかたについて、学んでいきます。

■到達目標

- ①高齢者の生活機能について理解し、それを整える看護について理解できる。
- ②認知症を抱えて生きるということ、それを支える看護のあり方について理解できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員

■授業計画・内容

- 1回目 「歳をとる」ということ
- 2回目 「生活機能」とは
- 3回目 高齢者の「活動」を支える
- 4回目 高齢者の「休息」を支える
- 5回目 高齢者の「食事」を支える
- 6回目 高齢者の「排泄」を支える
- 7回目 高齢者の「身だしなみ」を支える
- 8回目 高齢者の「コミュニケーション」を支える
- 9回目 高齢者の「日常生活」を支える①
- 10回目 高齢者の「日常生活」を支える②
- 11回目 「認知症高齢者」を支える①
- 12回目 「認知症高齢者」を支える②
- 13回目 高齢者の看護過程①～紙上演習を通じてのグループワーク
- 14回目 高齢者の看護過程②～紙上演習を通じてのグループワーク
- 15回目 高齢者の看護過程③～グループワークの発表とまとめ
試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
生活機能からみた 老年看護過程 医学書院

■参考文献

イブ・ジネスト他：ユマニチュード入門 医学書院
※その他については随時、紹介します。

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

高齢者の「生活」を支えることの意義と楽しさ、喜びについて理解することを期待しています。また、そもそも「生活」とは何か？についても考えられる構成です。学びを深めていって下さい。

老年看護の方法Ⅱ

開講年次：2年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

「高齢者」と一口に言っても、そのあり方は実に多様です。元気に日々暮らしている方もいれば、様々な症状や障害・疾患を抱えて生活している方、あるいはその人生に終焉が訪れようとしている方もいます。私たちは、多様なあり方をみせる高齢者に、どのような看護を提供していただけるのでしょうか。そんな看護のありかたについて考え、学んでもらうことが、本科目のねらいです。

■到達目標

- ①老年期に特徴的な症状の成因と、その看護について理解できる。
- ②高齢者に多い疾患の特徴と、その看護について理解できる。
- ③スピリチュアルケアと、それに関係する諸概念について理解できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

1回目	「老化する」ということ ～高齢者の生理的特徴
2回目	老年症候群：意識障害とせん妄
3回目	老年症候群：脱水
4回目	老年症候群：浮腫
5回目	老年症候群：排尿障害・便秘・嚥下障害
6回目	老年症候群：サルコペニアとフレイル
7回目	高齢者に多い疾患の特徴と看護：脳血管
8回目	高齢者に多い疾患の特徴と看護：循環器
9回目	高齢者に多い疾患の特徴と看護：呼吸器
10回目	高齢者に多い疾患の特徴と看護：運動器①
11回目	高齢者に多い疾患の特徴と看護：運動器②
12回目	高齢者に多い疾患の特徴と看護：消化器・内分泌
13回目	高齢者に多い疾患の特徴と看護：血液・腎
14回目	高齢者に多い疾患の特徴と看護：皮膚
15回目	スピリチュアルペインとスピリチュアルケア 試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院
生活機能からみた 老年看護過程 医学書院

■参考文献

イブ・ジネスト他：ユマニチュード入門 医学書院
※その他については随時、紹介します。

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

ご存じの通り、日本はこれから超高齢・多死社会を迎えます。これからの社会で提供される医療の中で、看護師として第一線で活躍する皆さんが、熱意をもって受講されることを期待します。

小児看護概論

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

小児看護の対象である子どもは常に成長発達し続ける存在であり、年齢や健康状態を問わず、権利を有する一人の人として尊重する必要がある。成長発達の特徴や子どもとその家族を取り巻く社会についての理解を深め、子どもが健やかに成長発達していけるための支援や最善のケアの基本を学ぶ。

■到達目標

- ①小児看護の対象である子どもの特徴を理解する。
- ②小児看護の役割を理解する。
- ③小児看護の変遷と子どもと家族を取り巻く現状について理解する。
- ④子どもと家族のための法律と施策について理解する。
- ⑤小児看護を実践するなかで留意すべき子どもの権利について理解する。
- ⑥子どもの成長・発達とその評価法について理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|-----|-----------------|
| 1回目 | 小児看護とは |
| 2回目 | 小児看護の変遷と現状 |
| 3回目 | 小児看護に関する政策と法・制度 |
| 4回目 | 子どもと家族を取り巻く現状 |
| 5回目 | 小児看護における倫理的配慮 |
| 6回目 | 子どもの成長・発達① |
| 7回目 | 子どもの成長・発達② |
| 8回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論小児臨床看護総論 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験90%、課題10%

その他

小児保健

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

子どもの各発達段階の特徴と成長発達を促すための養育・支援方法について理解し、さらに様々な状況にある子どもと家族への看護実践を学ぶ。

■到達目標

- ①子どもの健全な成長・発達を促進するための支援について理解する。
- ②病気や入院生活が、子どもの成長・発達に及ぼす影響について理解する。
- ③子どもの健康問題の特徴について理解する。
- ④子どもとその家族に対する意思決定を支える看護について理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- 1回目 乳児期の成長発達
- 2回目 幼児期の成長発達
- 3回目 学童期の成長発達
- 4回目 思春期の成長発達
- 5回目 病気を持つ子どもと家族の看護
- 6回目 環境による子どもと家族の看護
- 7回目 入院中・外来受診時の子どもと家族の看護
- 8回目 在宅療養中の子どもと家族の看護
- 9回目 災害時の子どもと家族の看護
- 10回目 急性期の子どもと家族の看護
- 11回目 慢性期の子どもと家族の看護
- 12回目 周手術期の子どもと家族の看護
- 13回目 終末期の子どもと家族の看護
- 14回目 障がいのある子どもと家族の看護
- 15回目 子どもの虐待と看護
試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論小児臨床看護総論 医学書院
根拠と事故防止からみた 小児看護技術 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験90%、課題10%

その他

小児看護の方法 I

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

子どもの身体の特徴をふまえ、子どもに起こりやすい疾患の病態や治療について学ぶ。

■到達目標

小児期に見られる各系統別の主な疾患と症状について理解する。

■担当教員 医師

■授業計画・内容

1回目	新生児の疾患 染色体異常 先天異常 高ビリルビン血症 RDS MAS
2回目	代謝性疾患 内分泌疾患 免疫・アレルギー疾患
3回目	感染症 呼吸器疾患
4回目	循環器疾患 消化器疾患
5回目	血液・造血器疾患 腎・泌尿器疾患
6回目	神経疾患 運動器疾患
7回目	感覚器疾患 精神疾患
8回目	試験

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

小児看護の方法Ⅱ

開講年次：2年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

子どもの健康障害の特徴と成長・発達に与える影響を学び、さらに健康障害のある子どもとその家族に適切な看護を実践するための基本的知識と援助技術を学ぶ。

■到達目標

- ①健康障害が子どもの成長・発達に与える影響と健康回復していくための支援方法について理解する。
- ②子どもに特徴的な症状のアセスメントの要点について理解する。
- ③小児期の特徴的な診療時の援助技術について理解する。
- ④健康障害のある子どもの家族への看護を理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員、看護師

■授業計画・内容

- | | |
|---------|-----------------------|
| 1-2回目 | 症状を示す子どもの看護 |
| 3回目 | 小児の感染症の看護 |
| 4回目 | 小児の循環器・運動疾患の看護 |
| 5回目 | 小児の消化器疾患の看護 |
| 6回目 | 小児の呼吸器系疾患の看護 |
| 7回目 | 小児の血液・造血器・悪性疾患の看護 |
| 8回目 | 小児の腎・泌尿器疾患・脳神経疾患の看護 |
| 9回目 | 小児の内分泌・アレルギー疾患の看護 |
| 10回目 | 子どもの救急救命処置 |
| 11-12回目 | 子どものアセスメント |
| 13-15回目 | 検査・処置を受ける子どもの看護
試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論小児臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院
根拠と事故防止からみた 小児看護技術 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験90%、課題10%

その他

母性看護概論

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

人間の性と生殖の意義を理解したうえで、次世代育成を担う対象の特性、母性看護の現状と役割・機能、女性の各ライフステージにおける健康の維持増進と支援について学ぶ。

■到達目標

- ①母性看護の機能と役割について理解する。
- ②母性看護に関する法律や施策について理解する。
- ③母性看護の変遷と統計から母性看護の現状を理解する。
- ④母性看護の対象を身体的・心理的・社会的側面から理解する。
- ⑤母性看護における倫理的問題について理解する。
- ⑥セクシャリティと多様な性について理解する。
- ⑦各ライフステージの健康問題と支援方法について理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|---------|---|
| 1回目 | 母性看護の基盤なる概念 |
| 2回目 | 母性看護の変遷と現状・母子保健統計からみた動向① |
| 3回目 | 母性看護の変遷と現状・母子保健統計からみた動向② |
| 4回目 | 母子保健に関する法律と施策 |
| 5回目 | 母性看護の対象理解① 生殖器の形態と機能 女性ホルモンと月経周期 |
| 6回目 | 母性看護の対象理解② 妊娠の成立と性分化 女性のライフサイクルと家族 |
| 7回目 | 母性看護の生命倫理 |
| 8回目 | 女性のライフステージ各期における健康と看護 |
| 9回目 | リプロダクティブヘルスケア① 家族計画・性感染症とその予防・HIVに感染した女性の看護 |
| 10回目 | リプロダクティブヘルスケア② 人工妊娠中絶・性暴力 |
| 11回目 | リプロダクティブヘルスケア③ 児童虐待・母子保健の国際化社会 |
| 12-14回目 | 女性のライフステージ各期における看護(事例)
思春期・成熟期・更年期・老年期各期の健康問題に個人ワークで支援方法について考える。 |
| 15回目 | 試験 |

■教科書(使用教材)

系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

個人ワークの取組・課題30%、筆記試験70%

その他

母性看護の方法 I

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

周産期にある母子の生理的変化について理解し、母子とその家族への看護の方法を学ぶ。

■到達目標

- ①妊娠によって生じる身体的・心理的・社会的変化について理解する。
- ②妊婦と胎児の健康状態についてアセスメントできる。
- ③妊娠経過中の妊婦と家族に必要な看護について理解する。
- ④分娩のメカニズムについて理解する。
- ⑤分娩経過中の産婦とその家族の看護について理解する。
- ⑥産褥期における身体的変化と変化を促進させるための看護について理解する。
- ⑦褥婦の健康状態のアセスメントについて理解する。
- ⑧褥婦と家族の心理・社会的変化と看護について理解する。
- ⑨新生児の生理的特徴と健康な発達を促進する援助について理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員、医師

■授業計画・内容

- | | |
|------|----------------------------|
| 1回目 | 出生前からのリプロダクティブヘルスケア |
| 2回目 | 妊娠期の身体的変化と特性 |
| 3回目 | 妊婦期の心理的・社会的変化と特性 |
| 4回目 | 妊婦と胎児のアセスメント |
| 5回目 | 妊婦と家族への看護 |
| 6回目 | 分娩の要素 |
| 7回目 | 分娩経過のアセスメント |
| 8回目 | 産婦と家族への看護 |
| 9回目 | 新生児の特徴と機能 |
| 10回目 | 新生児の出生直後のアセスメント |
| 11回目 | 新生児の健康状態のアセスメント |
| 12回目 | 褥婦の身体的変化と特徴①（全身状態・退行性変化） |
| 13回目 | 褥婦の身体的変化と特性②（進行性変化・母親役割獲得） |
| 14回目 | 褥婦の心理・社会的変化と特性、褥婦と家族への看護 |
| 15回目 | 試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院
根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

母性看護の方法Ⅱ

開講年次：2年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

周産期にある母子のハイリスク状態について理解し、その状態にある母子と家族の看護の方法について学ぶ。

■到達目標

- ①妊娠・分娩・産褥期の正常からの逸脱について理解する。
- ②異常のある妊産褥婦と家族の看護について理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員、医師、助産師

■授業計画・内容

- | | |
|-----|---------------------|
| 1回目 | 妊娠期の異常① |
| 2回目 | 妊娠期の異常② |
| 3回目 | 分娩期の異常① |
| 4回目 | 分娩期の異常② |
| 5回目 | 産褥期の異常① |
| 6回目 | 異常のある妊婦と家族の看護 |
| 7回目 | 異常分娩時の産婦と家族の看護 |
| 8回目 | 異常のある褥婦と家族の看護
試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院
根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

母性看護の援助技術

開講年次：2年後期 科目区分 講義・演習 単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

周産期にある母子の健康状態や生理的变化を知る上で必要な基本的な看護技術を習得する。

■到達目標

- ①妊婦の健康状態を知る上で必要な看護技術を理解する。
- ②褥婦の退行性変化・進行性変化を促進するための看護技術を理解する。
- ③新生児期に必要な看護技術を理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員

■授業計画・内容

1回目	妊娠期の看護技術①	子宮底・腹囲測定、レオポルド触診法、胎児心音聴取、NS
2回目	妊娠期の看護技術②	母親学級、妊婦の日常生活動作について
3回目	分娩期の看護技術①	分娩期の観察と看護、呼吸法、補助動作、安楽な体位
4回目	新生児期の看護技術①	新生児の計測、バイタルサイン測定
5回目	新生児期の看護技術②	新生児のオムツ交換・寝着交換・抱き方・沐浴・臍処置
6回目	産褥期の看護技術①	褥婦の退行性変化と全身状態の観察、退院指導
7回目	産褥期の看護技術②	褥婦の観察とアセスメント
8回目	試験	

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院
根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

演習の取り組みと演習後のレポート評価40%（妊娠期10%・分娩期10%・産褥期10%・新生児期10%）
筆記試験60%

その他

精神看護概論

開講年次：1年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

「こころ」のありかたを身体・社会との関連から捉え、「こころ」を対象とした看護の機能と役割を理解する。精神看護領域の主要理論について学ぶ。「こころ」の健康を維持・増進するための個人的・社会的な対応、および看護の役割・方法について理解する。精神障害の歴史と法律・制度の繋がりを学ぶ。

■到達目標

- ①精神看護学の基本的な考え方、および精神の健康について理解できる。
- ②人のこころの諸活動としくみについて理解できる。
- ③看護の対象としての家族と集団について理解できる。
- ④精神疾患・障害とその治療の歴史的な流れが理解できる。
- ⑤精神科看護に必要な法制度を理解できる。
- ⑥人をケアする仕事の特性と、それが看護師にもたらすものを理解できる。
- ⑦社会構造や生活様式の変化などに伴う心の健康につながる課題を理解できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院教員

■授業計画・内容

- | | |
|------|--------------------------|
| 1回目 | 精神看護学の考え方／こころとは |
| 2回目 | 精神の健康 |
| 3回目 | 心の機能と発達 |
| 4回目 | 危機〈クライシス〉 |
| 5回目 | 患者を支える家族の心の健康 |
| 6回目 | メンタルウェルネス |
| 7回目 | 精神保健医療福祉の歴史 |
| 8回目 | 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 |
| 9回目 | 精神保健福祉に関する法制度 |
| 10回目 | 心の健康に関する普及啓発／患者の権利擁護 |
| 11回目 | チーム医療と看護 |
| 12回目 | 現代社会と精神保健的問題／さまざまな社会病理現象 |
| 13回目 | 災害時地域精神保健医療活動 |
| 14回目 | ジェンダー |
| 15回目 | 看護師のメンタルヘルス
試験 |

■教科書（使用教材）

精神看護学 I 精神保健学 NOUVELLE HIROKAWA

■参考文献

系統看護学講座 専門分野	精神看護学 [1]	精神看護の基礎	医学書院
系統看護学講座 専門分野	精神看護学 [2]	精神看護の展開	医学書院
系統看護学講座 別巻	精神保健福祉		

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

精神障害の基礎

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

精神の障害における病因と病変の特徴、さらに系統別疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。

■到達目標

- ①薬理作用の理解に必要な脳の部位と神経系の名称、神経伝達物質と受容体を理解できる。
- ②精神機能の障害となる、さまざまな精神の症状を理解できる。
- ③精神障害の診断と分類、代表的な精神疾患について理解できる。
- ④精神科で行われている治療について理解できる。
- ⑤向精神薬にはどのようなものがあるのか理解できる。
- ⑥対象に直接ではなく、環境や人々の日常生活にはたらきかける治療について理解できる。

■担当教員 医師

■授業計画・内容

1回目	脳の仕組みと精神機能／臨床検査／心理検査
2回目	精神疾患の基礎知識 主な疾患／症状性を含む器質性精神障害 (F0)
3回目	主な疾患／精神作用物質使用による精神および行動の障害 (F1) 統合失調症、統合失調症型障害および妄想障害 (F2)
4回目	主な疾患／気分(感情)障害 (F3) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 (F4)
5回目	主な疾患／生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (F5) 成人のパーソナリティおよび行動の障害 (F6)
6回目	主な疾患／知的障害(精神遅滞) (F7) 心理的発達の障害 (F8) 小児(児童)期に通常発症する行動および情緒の障害 (F9)
7回目	薬物療法／電気けいれん療法／精神療法／リハビリテーション療法
8回目	試験

■教科書(使用教材)

精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 NOUVELLE HIROKAWA

■参考文献

系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院
系統看護学講座 別巻 精神保健福祉

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

精神看護の方法 I

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

精神に障害を持つ対象の理解を深め、主な症状に応じた看護の方法について学ぶ。

■到達目標

- ①精神機能の障害となる、さまざまな精神の症状の看護の方法について理解できる。
- ②それぞれの症状・状態のアセスメントと援助の方法について理解できる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

1回目	精神科看護師の役割 精神疾患患者の理解 急性期から回復期、慢性期の看護	
2回目	幻覚、妄想の患者の看護 せん妄状態の患者の看護	(統合失調症)
3回目	認知症患者の看護 拒絶的な患者の看護	(認知症)
4回目	ひきこもり状態の患者の看護 抑うつ状態の患者の看護 意欲減退状態の患者の看護 自殺・自傷行為のある患者の看護	(気分障害)
5回目	躁状態の患者の看護 不眠状態の患者の看護 依存状態の患者の看護 攻撃的行動をとる患者の看護 興奮状態の患者の看護	(依存性物質)
6回目	医療観察法で入院した患者の看護 強迫行為のある患者の看護 パニック障害のある患者の看護 不安状態の患者の看護 解離性障害のある患者の看護	(強迫性障害) (不安障害) (解離性障害)
7回目	操作をする患者の看護 摂食行動障害の患者の看護 児童・思春期・青年期の精神看護 身体合併症患者の看護	(境界性パーソナリティ障害) (発達障害)
8回目	試験	

■教科書 (使用教材)

精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 NOUVELLE HIROKAWA

■参考文献

系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院
系統看護学講座 別巻 精神保健福祉

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

精神看護の方法Ⅱ

開講年次：2年後期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：30時間

■科目のねらい

精神障害の急性期から緩解期、地域における看護の方法について理解する。自己理解と関係性の考察の方法を学ぶ。

■到達目標

- ① ストレングスとリカバリーを活かした看護について理解できる。
- ② 対人関係の看護理論を理解できる。
- ③ セルフケア理論と安全管理における看護の方法について理解できる。
- ④ 精神障害者の社会復帰・社会参加の基本を理解できる。
- ⑤ リエゾン精神看護とは何か理解できる。
- ⑥ 事例展開を通して精神科看護過程の展開について理解を深める。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員、看護師

■授業計画・内容

- | | |
|---------|-------------------|
| 1回目 | 患者-看護師関係 |
| 2-4回目 | セルフケアの援助 |
| 5回目 | 精神看護の看護過程 |
| 6回目 | 生きる力と強さ |
| 7-8回目 | 安全管理 |
| 9回目 | 保健医療に関する資源の活用と調整 |
| 10回目 | 社会資源の活用とケアマネジメント |
| 11回目 | 社会復帰・社会参加の基本 |
| 12回目 | リエゾン精神看護 |
| 13-14回目 | 事例展開（統合失調症） |
| 15回目 | 臨地実習の学びについて
試験 |

■教科書（使用教材）

精神看護学Ⅰ 精神保健学 NOUVELLE HIROKAWA

精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 NOUVELLE HIROKAWA

■参考文献

系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎

系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開

系統看護学講座 別巻 精神保健福祉

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

第2-4回「セルフケアの援助」と第7-8回「安全管理」は病院看護師が担当する。

看護医療安全

開講年次：2年前期 科目区分：講義

単位：1単位 講義時間：15時間

■科目のねらい

医療事故の実際から、事故発生の理由と予防策を考え専門職として患者の安全を守るための意識と態度を養う。

■到達目標

- ①医療安全の知識を理解する。
- ②医療現場における看護師の責務について理解する。
- ③医療安全対策の実際について理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学校専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|-----|--|
| 1回目 | 医療安全推進の背景
・横浜市立大学附属病院の事例
・医療安全をなぜ学ぶのか
・DVD「患者確認は安全管理の第一歩」 |
| 2回目 | 事故発生のメカニズムとマネジメント
・ヒューマンエラーとは
・DVD「医療安全とヒューマンファクターズ」 |
| 3回目 | 医療安全とコミュニケーション
・SBAR コミュニケーショントレーニング
・DVD「エラーを防ぐコミュニケーション」 |
| 4回目 | 与薬時の注意、個人情報保護
・事故分析KYT、PmSHELL |
| 5回目 | PmSHELL演習 |
| 6回目 | KYT演習 |
| 7回目 | KYT演習 |
| 8回目 | 試験 |

■教科書(使用教材)

ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践 医療安全 メディカ出版

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 医学書院

DVD「ナースのための医療安全管理」インターメディカ

DVD「医療安全とヒューマンファクターズ」大阪大学医学附属病院中央クオリティマネジメント部

■参考文献

■成績評価と方法

グループワーク参加状況、筆記試験合わせて100%

その他

災害・国際看護

開講年次： 2年前期 科目区分： 講義・演習 単位： 1単位 講義時間： 30時間

■科目のねらい

災害直後の医療活動の実際を学び、看護の役割を認識する。国際社会における医療・看護・福祉の動向を学び、看護師として諸外国との協力について考えることができる。救命救急における様々な健康状態の経過に基づく看護を学びまた、症状や治療、処置を受ける対象への看護を学ぶ。

■到達目標

- ①災害医療・看護概念・基礎的知識を理解する。
- ②災害時の医療・看護活動の実際を知る。
- ③災害時の心理的ケアの必要性を理解する。
- ④グローバルヘルスや国際協力の仕組み、文化を考慮した看護知識を学ぶ。
- ⑤持続可能な開発目標(SDGs)の取り組みについて知り、人道支援の原則について考える。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員、看護師

■授業計画・内容

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| 1回目 | 災害看護とは、災害の種類と災害サイクル |
| 2回目 | 災害医療に関する国の政策・法律、危機管理、演習エリア設営 |
| 3回目 | 配慮を必要とする人への支援と看護、被災者と支援者の心理の理解と援助 |
| 4回目 | 災害初期から中長期における看護活動 |
| 5回目 | 災害時に必要な医療・看護技術 |
| 6-10回目 | 災害キャンプ、災害訓練 |
| 11回目 | 国際看護とは |
| 12回目 | 日本における国際看護 |
| 13回目 | 海外における災害看護と国際看護活動 |
| 14-15回目 | BLS 演習
試験 |

■教科書(使用教材)

ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践 災害看護 メディカ出版

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

看護マネジメント

開講年次： 3年前期 科目区分： 講義

単位： 1単位 講義時間： 15時間

■科目のねらい

チーム医療及び多職種と協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解し、看護マネジメントできる基礎的知識を学ぶ。

■到達目標

- ①看護概論、マネジメントの概論を理解する。
- ②看護管理における安全管理について理解する。
- ③看護師長の役割と業務リーダーに求められる資質について理解する。

■担当教員 市立室蘭総合病院 看護局長

■授業計画・内容

- | | |
|-----|------------------------|
| 1回目 | 組織紹介 |
| 2回目 | 看護管理について
グループワーク |
| 3回目 | 看護師の役割 |
| 4回目 | 医療安全につて
グループワーク |
| 5回目 | チーム医療について
グループワーク |
| 6回目 | 私たちが考える看護管理
グループワーク |
| 7回目 | まとめ |
| 8回目 | 試験 |

■教科書(使用教材)

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験100%

その他

リーダーシップを学び、そのリーダーの組織ビジョンを理解しフォロワーとして自分はどうあるべきかを考えるための知識を構築して欲しい。

事例研究・研究倫理

開講年次：3年全期 科目区分：講義・演習 単位：3単位 講義時間：60時間

■科目のねらい

看護研究の意義・方法を学び、研究活動のプロセスを理解する。受け持ち患者の看護を振り返り問題解決プロセス、論理的思考を学ぶ。

■到達目標

- ①看護研究の意義・必要性を知る。
- ②看護研究を実施するための一連のプロセスに関心をもち、自ら研究に取り組むための基礎的思考力を身につける。
- ③さまざまな研究デザインがあることを理解し、研究疑問に応じたものを選択できる。
- ④看護研究においてどのような倫理的行動が必要かを理解する。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員

■授業計画・内容

- | | |
|---------|---------------------------|
| 1回目 | 看護研究の意義・目的 |
| 2回目 | 研究倫理 |
| 3回目 | 研究デザイン |
| 4回目 | 研究方法論 質的研究 |
| 5回目 | 研究方法論 量的研究 |
| 6回目 | 医療・看護領域の文献検索方法と実際 |
| 7回目 | 看護研究の批判的分析・クリティーク |
| 8-10回目 | 看護研究の批判的分析・クリティーク演習、発表 |
| 11-13回目 | 研究計画書作成 |
| 14回目 | 研究オリエンテーション |
| 15-25回目 | 看護研究演習（文献研究、実践報告、ケーススタディ） |
| 26-30回目 | 研究発表
試験 |

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

■参考文献

■成績評価と方法

筆記試験80%、研究レポート20%

その他

看護技術評価

開講年次：3年全期 科目区分：講義・演習 単位：2単位 講義時間：45時間

■科目のねらい

看護の知識・技術・態度を統合し、対象を全人的にとらえ対象の状態や場の状況に応じた一連の看護を実践することができる。

卒業までに看護技術が到達目標に達する。

■到達目標

①対象の状態や場の状況に応じて優先順位・時間管理・安全に配慮した適切なアセスメントができる。

②基本に則った看護技術を根拠に基づいて応用し実践できる。

③看護技術が到達目標に達するための自己の課題を明確にして主体的に取り組むことができる。

■担当教員 市立室蘭看護専門学院専任教員

■授業計画・内容

1-2回目	看護技術評価について 看護技術の卒業時到達度について
3-10回目	臨床判断力 ①臨床判断 ②報告 ③多重課題
11-17回目	看護技術評価試験説明 看護技術の卒業時到達度達成状況の検討 事例検討・演習
18回目	看護技術評価試験オリエンテーション
19-20回目	看護技術評価試験
21-23回目	講評、振り返り・まとめ

■教科書（使用教材）

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院

ナーシンググラフィカ 医療安全 看護の統合と実践② メディカ出版

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院

■参考文献

フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院

看護がみえる④ 看護過程の展開 メディックメディア

■成績評価と方法

課題・授業等の実施状況・技術試験100%

その他

本科目では、これまでの学びを基盤に臨床で活躍するために必要な知識・技術・態度を統合し、患者の状態や現状を判断して、様々な状況において患者の安全・安楽に配慮した看護を実践できることをめざします。授業での学びを実践の場で活かせるように工夫しながら学び、自身の看護師像や課題、将来働く自分の姿や目標を明確にしていきましょう。臨床での看護実践に戸惑いを感じることもありますが、周囲の人々と協働しながら課題を乗り越えていく力も共に身に付けていきましょう。